

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分
<p>9. 社会連携・社会貢献</p> <p>【計画48】(企画部) 医療・健康・保健面において地域を指向して教育研究活動を推進するとともに、地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの中核的存在としての機能強化を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」 社会連携・社会貢献の取組の中核となる支援体制や仕組みを整備する。</p> <p>「評価指標」 ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況</p> <p>【計画49】(企画部・各事務部) 大学が所在する地方自治体との連携を強化し、共催・後援による公開講座等や各種事業を推進する。</p> <p>「計画達成のための方策」 大学が所在する品川区、世田谷区、目黒区、立川市、和歌山市、船橋市等との共催・後援による公開講座の開催等を推進するとともに、産後不安を抱える母子へのケアに高度な助産実践力をもって貢献していく「産後ケア事業」等を推進する。</p> <p>「評価指標」 ・自治体と連携した公開講座や各種事業の開催数及び参加者数</p>	<p>II</p> <p>・学長直轄の「学長戦略本部」に、「学長戦略本部教学マネジメント・推進DXプロジェクト要綱」に基づく同プロジェクトチームを5月に設置し DXの推進のほか、関連して社会連携・社会貢献の取組について検討を行っているが、全学的な体制整備の構想案の策定まで検討できなかったため、引き続き令和5年度において、各部署の取組状況を確認することも含め、検討を継続することとした。</p> <p>IV</p> <p>・公開講座の実施については、令和4年6月15日に開催した「全学公開講座委員会」において、コロナ禍ではあるが参加者数を増やすことを意識し、大学のPRとして学生募集につながる取組を行うことや、地域の特性・ニーズを分析した上でテーマを決め、事前の広報活動や当日の人員配置等についても各キャンパスが主体的に対応すること等を定めた令和4年度公開講座実施方針について承認され、それぞれのキャンパスにおいて実施された。</p> <p>・「産後ケア事業」の推進については、【計画66】を参照のこと。</p> <p>・また、各キャンパスにおいて以下のとおり地域性を考慮した各種事業を推進した。</p>	<p>【年度計画48】 社会連携・社会貢献の取組の中核となる支援体制や仕組みを整備する。</p> <p>「評価指標」 ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況</p> <p>【年度計画49】 大学が所在する品川区、世田谷区、目黒区、立川市、和歌山市、船橋市等との共催・後援による公開講座の開催等を推進するとともに、産後不安を抱える母子へのケアに高度な助産実践力をもって貢献していく「産後ケア事業」等を推進する。</p> <p>「評価指標」 ・自治体と連携した公開講座や各種事業の開催数及び参加者数</p>	<p>III</p> <p>・全学的な社会連携・社会貢献の取組の実態が不明なことから、学長戦略本部において、「地方公共団体、企業、関連病院等との連携・協力による地域の課題解決に向けた各種取組状況」について各部署に対し調査を行った結果、企業、行政機関、消防団、医師会、病院、看護協会、学校、財団、自治会、社会福祉協議会、地域実行委員会、防災協議会、プロスポーツチームなどの多岐にわたる連携事業を各部署単位あるいは教員個人単位で連携していること、また特定の教員グループ・教員個人単位で多数の連携事業を行っており負担が増大していること、事業経費については連携先からの事業支援は少なく、大学や教員の持ち出しが多い等の課題も見えてきた。</p> <p>・これらの課題解決のため、総合研究所の組織強化及び学長戦略本部に「研究力強化会議」を設置し学内の体制強化を図るため、「東京医療保健大学の研究推進、外部資金獲得及び研究インテグリティを確保する体制の整備に関する要綱」を策定し、令和6年2月21日開催の学部長等会議において審議・承認されたことから、今後具体的な取組を進めていくこととした。</p> <p>IV</p> <p>・公開講座の実施については、令和5年6月29日に開催した「全学公開講座委員会」において、大学のPRとして学生募集につながる取組を行うことや、地域の特性・ニーズを分析した上でテーマを決め、事前の広報活動や当日の人員配置等についても各キャンパスが主体的に対応すること等を定めた令和5年度公開講座実施方針について承認され、それぞれのキャンパスにおいて実施された。</p> <p>・「産後ケア事業」の推進については、【計画66】を参照のこと。</p> <p>・また、各キャンパスにおいて以下のとおり地域性を考慮した各種事業を推進した。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分	評価区分	評価区分
	<p>(五反田事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療保健学部看護学科と品川消防署が連携を行い、地域・社会貢献を目的に学生消防団員の募集を行い、8名の学生が入団を希望した。令和4年12月13日には品川消防署長等が来校し、辞令式を実施した。 ・五反田キャンパスの近隣に位置する品川区立第三日野小学校より8名が生活学習の一環で来校し、地域看護学領域の教員が施設見学やインタビューに協力した。 ・医療保健学部看護学科の渡會教授が中心となり、東京都の一般社団法人「住民とともに活動する保健師の会」からの委託事業を実施してきた。本学との連絡がより可能となり、地域貢献・関連研究等が促進されることを期待し、医療保健学部看護学科の付属組織として「地域健康づくり研究・教育センター」を設置することの検討を行った。(センターの設置は令和5年4月より) <p>本センターは、品川区をはじめ、全国及び各自治体や地域と連携協同して、保健・健康づくりの発展に関する業務等を行う予定である。</p> <p>(世田谷事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世田谷区教育委員会と連携して「手の消毒効果について」の体験学習を2月13・18日に三宿小学校で実施。児童参加32名/各日、教員1名、学生7名参加。 <p>(東が丘事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【計画59-1】～【計画59-3】を参照のこと。 <p>(立川事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立川市と連携して、8月25日に「アロマでせっけんづくり」という公開講座(定員 親子20組×2回)、12月10日に「やってみよう!自分のできるストレスマネジメント」(定員50名)という公開講座を実施した。どちらも好評であり、定員以上の申し込みをいただいた。 <p>(千葉事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【計画61-1】を参照のこと。 <p>(和歌山事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【計画62-1】を参照のこと。 		<p>(五反田事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療保健学部看護学科と品川消防署消防団は昨年に引き続き、令和5年10月25日に入団辞令交付式を本学にて実施した。辞令交付式には学生団員11名、品川消防団長等、亀山学長が参加した。 ・品川区立第三日野小学校で発展学習として学んでいる「防災」の一部として、臨床看護学急性期領域の教員が防災講習を実施した。 ・令和4年度に医療保健学部看護学科の付属施設として設置された「地域健康づくり研究・教育センター」の活動として令和5年度も地域と連携した様々な活動を実施し、報告書をまとめ第5回大学経営会議の資料として周知した。 <p>(世田谷事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に、世田谷区教育委員会と連携して体験学習「食品から色を取りだして調べよう!」(食品に含まれる合成着色料の種類を調査)を三宿小学校で実施。児童40名、教員1名、学生5名参加。 ・船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している事業について、「ふなばし夏のボランティア」の案内を5月に、「マナフェス」ボランティア案内を10月の計2回実掲示した。各活動の参加実績は把握していない ・11月5日 ふなばし健康まつりに学生と教職員が参加し本学の広報活動とボランティア活動を行った。参加人数は教職員9名、学生32名でした。 ・地域交流イベント2023を3月24日に開催し254名の参加者があった。 <p>(和歌山事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山市と共催し、9月16日(土)雄湊キャンパスにおいて「がまんしていませんか?その痛み!一経障害についてみんなで知ってやわらげよう」と題し公開講座を実施した。本学部福山教授の講演や和歌山市保健所の保健師など2名による和歌山市の現状説明を行い。市民43名(オンライン12名)の参加いただき月経痛を緩和する体操方法を紹介、一緒に行った。 ・和歌山市が主催する学生支援プロジェクトに参加、学生4名、教員2名、事務職員1名が参加し、ブースにおいて看護演習体験等を行い、参加中学生(会場参加440名)に将来の進路の情報提供を行った。 		

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分
<p>【計画50】(企画部・各事務部) 保健医療関係機関等との連携協力により、医療現場の今日的な課題解決等を図るため、各種連携事業等を推進する。</p> <p>「計画達成のための方策」 独立行政法人地域医療機能推進機構や国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定を締結後、地域医療の課題やニーズに的確に対応するため人事交流、共同研究等の各種協働事業等を推進する。</p> <p>「評価指標」 ・独立行政法人地域医療機能推進機構と国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定の締結や各種協働事業等の推進状況</p>	<p>IV (東が丘事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年1月31日に国立研究開発法人国立成育医療研究センターと連携・協力協定を締結した。 ・人事交流では臨床教授4名、非常勤講師11名が就任すると共に立川看護学部にて教授として入職している。実習施設として大学院助産をはじめ学部・学科全体で延74名が利用するなど協働事業は進展中である。 (千葉事務部) <ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人地域医療機能推進機構より、1名の講師を受け入れ、人事交流を継続した。 ・JCHO船橋中央病院において、①令和4年度新卒看護職員研修への参加、②ラダーⅢ看護研究計画立案指導、③看護研究支援を行った。また、JCHO東京山手メディカルセンターにおいて看護研究支援、JCHO埼玉メディカルセンターにおいて看護研究支援を行った。 ・JCHO主催の実習指導者講習会への講師派遣を行った。 (和歌山事務部) <ul style="list-style-type: none"> ・日赤和歌山医療センターとの連携事業として、和歌山看護実践研究センター主催にて地域の課題である精神医療について「精神疾患と治療・精神看護に関する学習会」を全5回実施し、地域医療機関の方々延べ201名に参加いただいた。 ・日赤和歌山医療センターにおいて開催された看護研究研修会、キャリア開発研修、看護実践報告会に講師として教員を派遣し、支援を行った。 	<p>【年度計画50】 独立行政法人地域医療機能推進機構や国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定を締結後、地域医療の課題やニーズに的確に対応するため人事交流、共同研究等の各種協働事業等を推進する。</p> <p>「評価指標」 ・独立行政法人地域医療機能推進機構と国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定の締結や各種協働事業等の推進状況</p>	<p>III (東が丘事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事交流では臨床教授5名が就任、非常勤講師21名に授業を担当いただいている。実習施設として大学院助産をはじめ学部・学科全体で延346名が利用するなど協働事業は進展・拡大中である。 国立病院機構とも定期的な会合を持ち、密な連携を継続している。 ・NHO本部の副理事長の人事交代により、昨年11月末の「NPフォーラム」への本部職員参加者数が増え、フォーラム終了後、全国のNHO施設に本部から診療看護師の業務基準に係る調査がなされ、NPに対する関心が高まり、地域に勤務している修了生からの反応があり、従来に比し密な関係が推進された。 (千葉事務部) <ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人地域医療機能推進機構より、1名の講師を受け入れ、人事交流を継続した。 ・JCHO船橋中央病院において、①令和5年度新卒看護職員研修への参加、②ラダーレベルⅢ看護研究計画立案指導、③看護研究支援を行った。 ・JCHO主催の実習指導者講習会への講師派遣を行った。 (和歌山事務部) <ul style="list-style-type: none"> ・日赤和歌山医療センターとの連携事業として、和歌山看護実践研究センター主催にて「臨床実践を科学的に意味づける」一文献検索の意義と方法を知ろうー(全4回)をテーマに地域の中堅看護師8名に参加いただき、キャリア開発の支援、モチベーションアップと生涯教育につながる研修会を開催した。 ・日赤和歌山医療センターにおいて開催された看護研究研修会などに講師として教員を派遣し、支援を行った。 ・日赤和歌山医療センターに就職する看護学生対象に看護技術の基礎トレーニングを実施、就職予定者40名が参加し日赤と協力して指導を行った。 		

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>【計画51】（五反田事務部・感染制御学教育研究センター） 大学院研究科における研究の取組を紹介するための公開講座の実施や保健医療機関等からの要請に基づく感染制御実践看護学講座及び感染制御学企業人支援実践講座等を実施する。</p> <p>「計画達成のための方策」 大学院主催の公開講座や、保健医療機関等の看護師の要請に応じた「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」を実施する。特に、公開講座については、対面及びオンラインでのハイブリッド型の実施により、より参加しやすい環境を整備する。</p> <p>「評価指標」 ・公開講座の開催数及び参加者数、「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」等の受講者数</p>	IV	<p>（五反田事務部） 医療保健学研究科では平成27年度より研究科公開講座を実施しており、令和4年度は第7回となり、以下のとおり実施した。 日時：令和4年7月3日（日） テーマ：先をみる医療—新型コロナウイルス感染症がもたらした社会の変化— 昨年度から引き続きZoomでの開催とし、H29年度の実施から最多となる207名が参加し、アンケート結果も好評であった。 （感染制御学教育研究センター） 感染制御学教育研究センターにおいては保健医療機関等で感染管理に従事する看護師の要請に応じ、「感染制御実践看護学講座」を実施している。 1. 令和4年度感染制御実践看護学講座 保健医療機関等において5年以上感染管理に従事した経験を有する看護師を対象に平成22年度から実施しており、令和4年度で第13回となり、以下のとおり実施した。 期間：令和4年4月23日（土）～10月29日（土） 受講者数：23名 2. 令和4年度感染制御学企業人支援実践講座 企業等において感染制御に関する業務に携わっている者や医療機器や医薬品等の製造・販売に関連する企業を対象に、感染制御学の基礎と最新の情報や医療現場の取組などを学ぶ実践的な講座として平成25年から実施している。 期間：令和4年10月1日（土）～12月3日（土） 受講者数：2名</p>	<p>【年度計画51】 大学院主催の公開講座や、保健医療機関等の看護師の要請に応じた「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」を実施する。特に、公開講座については、対面及びオンラインでのハイブリッド型の実施により、より参加しやすい環境を整備する。</p> <p>「評価指標」 ・公開講座の開催数及び参加者数、「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」等の受講者数</p>	IV	<p>（五反田事務部） 医療保健学研究科では平成27年度より研究科公開講座を企画・実施しており、令和5年度は以下のとおり実施した。 日時：令和5年7月8日（土） テーマ：先をみる医療—地域包括ケア時代の課題と展望 例年、研究発表、教育講演、特別講演のプログラム構成であったが、今回は教育講演及び特別講演の講演者を登壇者としたパネルディスカッションの時間を設けた。 昨年度と同様Zoomでの開催とし、209名の申込者があり、うち180名が当日参加した。アンケート結果も好評であった。</p> <p>III （感染制御学教育研究センター） 1. 感染制御実践看護学講座 同センターでは保健医療機関等で感染管理に従事する看護師の要請に応じ、平成22年より「感染制御実践看護学講座」を実施しており、令和5年度に第14回を以下のとおり実施した。 ・期間：令和5年4月22日（土）～10月28日（土） ・受講者数：23名（申請者数は45名であり書類審査及び筆記試験により選抜を行った） 2. 感染制御学企業人支援実践講座 同センターでは企業等において感染制御に関する業務に携わっている者や医療機器や医薬品等の製造・販売に関する企業を対象に、感染制御学の基礎と最新の情報や医療現場の取組などを学ぶ実践的な講座として平成25年から実施している。令和5年度も募集を行ったが申請者がいなかったため実施しなかった。</p>				

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分	評価区分	評価区分
<p>【計画52】(学長戦略本部、各事務部) 本学を卒業した医療人等の生涯学習の場づくりを支援するため、「ポータルサイト」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で情報交換等が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設し、継続教育の機会を提供する。</p> <p>「計画達成のための方策」 「一歩先を歩む医療人のポータルサイト(仮称)」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で研修案内や情報交換が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設する。</p> <p>「評価指標」 ・「ポータルサイト」の設置状況及び看護職に対する生涯学習支援講座の開催数及び参加者数</p> <p>【計画53】(各事務部、学生支援センター) 医療系の大学で学ぶ学生として社会貢献・社会活動に関する意識の涵養及び学習意欲の向上を図るとともに、地域との交流を深め地域社会の発展に寄与するため、学生のボランティア活動への積極的な参加を奨励する。</p> <p>「計画達成のための方策」 組織的なボランティア活動を展開するための中核となる支援体制や仕組みを整備する。</p> <p>「評価指標」 ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況</p>	<p>II</p> <p>・学長直轄の「学長戦略本部」に、「学長戦略本部教学マネジメント・推進DXプロジェクト要綱」に基づく同プロジェクトチームを5月に設置し、ポータルサイトの開設の検討を行っているが、ニーズ調査等も必要であるため、引き続き令和5年度に検討を継続することとした。</p> <p>III</p> <p>・組織的なボランティア活動を展開するための中核となる支援体制や仕組みを整備するには至っていない。ボランティア活動は地域性が高く、イベントの発生ベースで募集があるため、学部を跨いだ組織横断的な取り組みが行いにくく、効果もあまり見込めない一方、事務部単位では地域性を踏まえた活動が行われた。(五反田事務部) ・医療保健学部看護学科では、品川区の在宅介護支援センターとの連携で有志が在学ケアチームの一員としてボランティア活動を実施している。ボランティア活動を通じて連絡ノートの記載や身体の状態に応じた観察など看護学生として貴重な体験ができる。</p>	<p>【年度計画52】 「一歩先を歩む医療人のポータルサイト(仮称)」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で研修案内や情報交換が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設する。</p> <p>「評価指標」 ・「ポータルサイト」の設置状況及び看護職に対する生涯学習支援講座の開催数及び参加者数</p> <p>【年度計画53】 組織的なボランティア活動を展開するための中核となる支援体制や仕組みを整備する。</p> <p>「評価指標」 ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況</p>	<p>II</p> <p>・学長戦略本部教学マネジメント・DX推進プロジェクトチームにおいて、全学共通の卒業生向けのポータルサイトを開設するための検討を行い、まずは医療栄養学科の卒業生にそのニーズ調査を実施した。調査の結果、84名の回答があり、 ①大学訪問理由については、教員訪問、医愛祭参加、セミナー参加、証明書発行のためが上位を占めた。 ②大学に求める情報については、転職情報、セミナー情報、大学イベント情報、現在の大学に関する情報が上位を占めた。 ③卒業生専用ページに求めることについては、証明書発行手続き、転職の相談、セミナーの申し込み、資格取得の相談、現在の業務に関する相談、卒業生同士の交流が上位を占めた。 ・令和6年度は、看護の分野等においても同様の調査を実施した上で、全学的な卒業生のニーズを踏まえたポータルサイトの具体的な制度設計を進めることとする。</p> <p>III</p> <p>(五反田事務部) ・医療保健学部看護学科ではHomecoming Dayを開催しており、令和5年度で7回目となった。在校生等との交流会だけでなく、病院や医療センターで活躍している卒業生数名を招き、トークセッションの時間を設け、生涯学習支援講座としての内容も含んでいる。 ・令和5年度は福祉グループ、病院等から3名の卒業生を招き4年ぶりに対面を実施し、卒業生26名、在学生8名、教職員等28名、計62名が参加した。</p> <p>IV</p> <p>(五反田事務部) ・医療保健学部看護学科では、昨年度設置した「地域健康づくり研究・教育センター」が中心となり、学生と行う社会貢献事業、品川区役所と大学教員との連携・社会貢献事業、地域組織とともに行う活動等、様々な活動を積極的に行った。</p> <p>III</p> <p>(世田谷事務部) ①世田谷区と連携し区立の教育機関における部活動等支援要員募集の定期的な案内実施、②キャンパス周辺の地区ボランティア団体広報誌等の掲示。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分
<p>【計画54】(学長戦略本部・総合研究所、研究協力部) 教育・研究の充実・発展を図るため、産・学・官等との共同研究や受託研究の推進及び科学研究費等補助金の申請等により、外部資金を確保する。</p> <p>【計画達成のための方策】 「学長戦略本部」を中核として、共同研究や受託研究のニーズを発掘し、大学研究者が有する研究シーズとのマッチングを支援するなど、支援体制を強化する。</p> <p>【評価指標】 ・共同研究、受託研究の実施件数及び科学研究費等補助金等の申請件数及び採択件数</p>	<p>(世田谷事務部) ・学生ボランティアの支援体制は事務部が世田谷キャンパスの2学科共通の窓口となり、以下の活動を実施した。①世田谷区と連携し区立の教育機関における部活動等支援要員募集の定期的な案内実施(1名参加報告有)、②キャンパス周辺の地区ボランティア団体広報誌等の掲示。</p> <p>(東が丘事務部) ・学生ボランティアの支援体制は学生生活委員会及び事務部が窓口となり以下の活発な活動を実施した。①目黒消防団活動168名、②東京医療センター七夕飾りイベント16名、③目黒区民まつり19名、④東京2020パラリンピック3名、⑤アロマ石鹸づくり3回18名、⑥「東が丘保健室たより」年1回発行、⑦教員2名が各々目黒区の生涯学習推進協議会メンバー、自殺対策推進会議会長に就任し目黒区との交流を強化した。</p> <p>(立川事務部) ・立川看護学部では、包括連携協定を結んでいる立川市関係を中心として、立川市消防団活動(151名)、立川市ハーフマラソン(76名)、立川パートナーシップフェスタ(21名)、パートナーシップ合同訓練&ウェルカム警視庁(27名)、立川市赤十字奉仕団(29名)など、多くの学生がボランティアとして参加した。</p> <p>(千葉事務部) ・千葉看護学部で2回目の開催となる地域交流イベントに学部生64名が運営ボランティアとして参加した。また、同イベントの企画である「からだのお話し会(未就学児がからだについて学ぶお話し会)」に学部生8名が参画した。</p> <p>船橋市が実施する「ふなばし夏のボランティア体験事業」の情報を学生に配信し、学生が夏季休暇中にボランティア活動を行えるよう支援した</p> <p>(和歌山事務部) ・日赤和歌山県支部との連携、協力のもと「東京医療保健大学和歌山看護学部学生赤十字奉仕団」を結成し、献血活動、地元の子ども食堂の運営支援など奉仕団活動を精力的に行った。また、立川看護学部が参画し活動を行っている立川市赤十字奉仕団の学生や担当者との意見交換会を開催するなど、学部を越えた交流を行った。</p> <p>・地元で3年ぶりに開催された和歌山市社会福祉協議会主催の「わかやま社協まつり」に学生、教職員が参加し、高齢者疑似体験等のコーナーを担当し地域住民の健康・福祉に貢献した。</p> <p>II ・令和4年度の共同研究の新規契約件数は5件(令和3年度：7件)、受託研究の新規契約件数は8件(令和3年度：5件)であり、コロナ禍ではあったが、受託研究については昨年度を上回る件数を確保したところである。 ・また、令和4年度科学研究費等補助金等の申請件数は41件(令和3年度：30件)、採択件数は8件(令和3年度：7件)であり、申請件数・採択件数とも前年度以上の件数を確保したところである。</p>	<p>【年度計画54】 「学長戦略本部」を中核として、共同研究や受託研究のニーズを発掘し、大学研究者が有する研究シーズとのマッチングを支援するなど、支援体制を強化する。</p> <p>【評価指標】 ・共同研究、受託研究の実施件数及び科学研究費等補助金等の申請件数及び採択件数</p>	<p>III (千葉看護学部) 「ふなばし健康まつりの情報」「地域交流イベントの情報」を学生に周知して学生がボランティア活動を行えるよう支援した。それぞれのイベントには学生と教職員が参加し本学の広報活動とボランティア活動を行った。 参加人数は、ふなばし健康まつり：教職員9名、学生32名、地域交流イベント：教職員37名、学生74名</p> <p>III (和歌山事務部) ・令和4年度に日赤和歌山県支部との連携・協力のもと結成した「東京医療保健大学和歌山看護学部赤十字奉仕団」は合計36名の学生が所属し、日赤県支部の活動に参加するなど、自分たちで企画した市立図書館でのイベントを行い、活発に活動した。 ・和歌山市主催の紀州おどり「ぶんだら節」(46名参加)、和歌山市社会福祉協議会が主催する社協まつり(7名参加)など地域のイベントにも積極的に参加した。 ・和歌山市消防署との共催による多数傷病者訓練を雄湊キャンパスにて実施、学生49名が傷病者役などを行った。また、令和5年度緊急消防隊近畿ブロック合同訓練(学生31名参加)など地域大規模災害訓練にも多くの学生が参加した。</p> <p>III ・令和5年度の共同研究の新規契約件数は4件(令和4年度：5件)、受託研究の新規契約件数は7件(令和4年度：8件)であり、依然としてコロナ禍の影響はあったが、共同研究及び受託研究とも昨年度とほぼ同件数を確保した。 ・また、令和5年度科学研究費等補助金等の申請件数は43件(令和4年度：41件)、採択件数は8件(令和4年度：8件)であり、申請件数は前年度を2件上回り、採択件数は前年度と同件数を確保したところである。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分
<p>【計画55】 【計画32の再掲】 (国際交流センター、研究協力部、各事務部)</p> <p>学生・教員に係る海外派遣・海外研修等を実施するとともに、オンラインを活用した海外大学等との交流を拡大する。また、海外からの留学生・研究生等の受入れを推進し、大学の国際化を進め、国際的視野を持つ医療人の育成に努め、地域貢献及び地域の国際化に寄与する。</p> <p>「計画達成のための方策」</p> <p>1. 学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れを積極的に行うため、海外の大学や医療機関との交流締結を更に推進する。特に、国際交流センターでは従来から協力関係にあったハワイ大学とシャミナード大学との大学間提携を実現できるよう両大学に積極的に働きかける。</p> <p>2. 国際的な講演会の開催など積極的に推進する。</p> <p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度 ・国際的な講演会等の開催状況 	<p>III (国際交流センター、研究協力部)</p> <p>1. ハワイ大学とシャミナード大学との大学間の正規の提携は、コロナ禍等の影響により先方の受け入れ状況等が整わなかったため、提携までには至らなかった。引き続き令和5年度に達成できるよう準備をする。オーストラリアのグリフィス大学とは令和2年に公式提携を結んでいる。研修実施状況としては、令和4年9月にグリフィス大学オンライン研修(OSAPatGU)を、令和5年3月にはオンラインハワイ研修(OSAPinHI)を実施した。OSAPatGUには17名が参加、OSAPinHIには本学学生及び教員39名が参加した。後者にはシャミナード大学の学生12名も参加して交流を行った。</p> <p>III</p> <p>2. 国際的な講演会に関しては、リレー講演会「世界の医療を知ってみよう」をテーマとして医療保健学部看護学科と共催した。令和4年12月から令和5年2月までの間に、全学を対象として、オーストラリア、ニュージーランド、イギリスの医療に関する講演会を3回オンラインにて実施した。学生、大学院生、専攻科生、教員が、多数参加して非常に好評であった。各回の参加者数は、1回目リアルタイム86名/オンデマンド67名、2回目リアルタイム61名/オンデマンド42名、3回目73名/オンデマンド22名であった。</p>	<p>【年度計画55】</p> <p>1. 大学間連携を行っているグリフィス大学との提携を更新する。さらにハワイ大学、シャミナード大学との大学間提携を進めるとともに両大学との研修内容の充実を図る。</p> <p>2. 国際的な講演会の開催など積極的に推進する。</p> <p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度 ・国際的な講演会等の開催状況 	<p>III (国際交流センター、研究協力部)</p> <p>1. グリフィス大学との大学間連携の更新は、グリフィス大学担当者の変更によって作業が遅れたためできなかったが、次年度4月中に更新は完了する予定である。同大学との海外研修プログラムに関しては、令和5年9月に第5回グリフィス大学オンライン研修を実施し16名が参加した。さらに令和6年3月に4年半ぶりにグリフィス大学現地研修を実施した。参加者は46名と近年で最多であった。参加者に対する実施後アンケート調査(回答者38名、回答率82.6%)では、研修プログラム全体に対する評価は「大変満足」「まあまあ満足」を合わせると100%であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハワイ大学、およびシャミナード大学との提携は、両大学の教職員スタッフの大幅な変更などにより、本学との研修プログラムは一時休止状態となっている。今後どのような連携やプログラムを実施できるか、両大学と模索中である。 ・中国の燕山大学からの申し入れを受けオンライン交流会を令和5年12月に実施した。両大学各10名ずつ、20名が参加した。 <p>IV</p> <p>2. (国際交流センター、研究協力部)</p> <p>令和5年度には4回の国際的な講演会を実施した。9月にバン格拉デシュの医師S. A. ナイーム氏を五反田キャンパスに招いて、対面およびオンラインの特別講演会「バン格拉デシュの医療・介護の現状と未来」を実施した。申込者数133名。またオンラインによる3回にわたるリレー講演会を以下の通り実施した。(申込者数173名) 10月:「アメリカの医療事情」(講師:安西耕氏)、11月:「国際比較からみる女性特有の健康課題」(小川真里子氏) 12月:「ベトナムの医療現場から考える国際医療協力」(講師:森山潤氏、勝山なおみ氏) 申込者数173名。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画	令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分			評価区分			
	III	(世田谷事務部) ・9月にオーストラリアのグリフィス大学（学生6名/教員3名）、3月にハワイのシャミナード大学（学生4名/教員2名）とオンライン交流を実施。		III	(五反田事務部) 国際交流センター主催のオーストラリア現地研修に医療保健学部看護学科より学部生9名、教員2名が参加した。		
	IV	(立川事務部) ・オーストラリア研修への参加は、4年生1名だけであったが、ハワイ研修については、学長裁量経費の補助もあったため、参加者は13名（3年11名、1年2名）であった。		IV	(世田谷事務部) ・9月に台湾秀傳医療グループの病院、老人ホーム、産後ケア施設を訪問（医療情報学科、学生5名/教員2名） ・3月にオーストラリアのグリフィス大学研修（医療情報学科、学生6名/教員1名）		
	III	(千葉事務部) ・東京医療保健大学総合研究所の依頼に基づき、ヘルスシステムデザインユニットが主導する産科領域の働き方改革に関する研究における、海外事例の収集と日本への適用方策を検討するために、千葉看護学部の教授1名が、3/20-22の期間で台湾医療施設を視察した。 ・9月にオーストラリアのグリフィス大学（研修参加者学部生1名/教員2名支援教員）、3月にハワイのシャミナード大学（研修参加者学部生2名・大学院生1名・教員1名/教員2名支援教員）とオンライン交流を実施。「世界の医療ケアを知ってみよう！」との企画のもと、リレー講演会の開催（3回）を支援した。		III	(千葉事務部) 「世界の医療ケアを知ってみよう！」リレー講演会（3回）の参加推奨を行った。 「バンラデシュの医療・介護の現状と未来」特別講演会の参加推奨を行った。 中国の燕山大学との初オンライン交流参加学生を推薦した。 年度末に学部活動報告を行い、情報共有を行った。実施についてまとめ、成果共有を2024年前期に行う予定である。		
	III	(和歌山事務部) ・学術交流協定を締結しているベトナムナムディン大学の卒業生（介護士）他との交流会を開催、学生13名が参加し国際的な看護や文化、海外の医療等を学び、有意義な異文化交流を行った。		III	(和歌山事務部) ・学術交流協定を締結しているナムディン大学の卒業生で医療従事者2名（ベトナム人介護士）と学部生5名、大学院生1名が参加し交流会を開催した。 ・オーストラリア海外研修には、学生4名、引率教員1名が参加した。		

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>○医療保健学部看護学科 【計画56-1】㊦</p> <p>地域貢献事業の展開及び地域活動を通して学ぶプログラムを実施する。</p> <p>「計画達成のための方策」</p> <p>1. 令和5年まで年間9回（大学体育館5回、八潮4回）の健康づくり事業を継続実施する。</p> <p>2. 看護の統合実習において、地域の子育て支援事業に参加する</p> <p>3. 地域ボランティアについて、学生に参加を呼びかける。</p> <p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域保健活動事業「健康づくりの会」の実施継続（年9回（五反田5回、八潮4回）） ・地域の子育て支援事業との協働（実習を通して）の継続（年20名の学生実習） 	III	<p>1. 健康づくり事業をコロナ禍でも継続できるよう、開催方法をオンラインへ、実施回数を5回（2会場合同）へ変更し、また実施内容に学生企画（学生によるミニ健康講座）を取り入れるなど、工夫しながら実施した。参加者は50～80歳代の延べ82名（実人数27名）であった。学生はオンラインであっても地域住民と交流する機会が得られ、この関わりを通し実際の健康・生活状況について学ぶことはできた。一方で、オンライン開催のため参加できなかった住民は多く、学生や参加者からも会場開催を望む声が聞かれており、会場開催を実現することが課題である。</p> <p>2. 「NPO法人ふれあいの家 おばちゃんち」についての講義を受けた後、学生（20名）は2～3名に分かれ「にじっこ」、「しながわこども冒険ひろば」、「そとぼ〜よ！」等の子育て支援事業へ参加した。未就学児や小学生との外遊び、保護者との交流を通じて地域における子育て支援の実際を学んだ。</p> <p>3. 地域ボランティアについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東五反田地区夏祭りにおいて、学生2名がボランティアとして参加した。 ・東五反田ファーム・エイド（東五反田倶楽部・NTT関東病院地域連携室等と連携）に、学生ボランティア19名、教員2名参加 ・部活動2SK会（青少年の性と健康を考え活動する会）の学生（1-4年生で103名所属）が、東京都認定資格「東京都エイズ・ピア・エドゥケーター」の資格を本年度8名が取得し、中学高校計3校において講演を行った。 ・品川区との締結において、健康大学しながわ 運営・評価、震災対策計画 会議における運営計画助言を行った。 ・品川区大崎第一地域センターにおいて、町会・自治会研修会に地域絆づくりの講演会において講師を務めた。 ・地域医療機関・医師会からの依頼である性教育推進において、品川区内三浦医院院長を中心とする性教育推進グループに携わり、研修会運営、研修会講師を務めた。2SK会メンバーも参加した。 ・品川区立第三日野小学校 小学2年生の生活科授業における見学サポートを行った。 	<p>【年度計画56-1】</p> <p>1. 令和5年までは、年間5回（大学体育館5回）の健康づくり事業を継続実施する。</p> <p>2. 看護の統合実習において、地域の子育て支援事業に参加する</p> <p>3. 地域ボランティアについて、学生に参加を呼びかける。</p> <p>4. 地域健康づくり研究・教育センターを設立し活動を開始する。</p> <p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域保健活動事業「健康づくりの会」の実施継続（年5回・五反田体育館） ・地域の子育て支援事業との協働（実習を通して）の継続（年19名の学生実習） 	III	<p>1. 健康づくり事業を前年度のオンラインから対面形式へ、また事業全体（準備、実施内容、終了まで）を学生がグループで分担して計画立案・実施するよう変更して実施した。対面形式での実施は3年ぶりであったため、開催場所を大学体育館のみとして計5回行った。参加者は30～90歳代の延べ116名（実人数39名）であった。学生は参加者と積極的に交流し、地域住民の健康や生活状況について学びを深めるとともに、地域で自分らしく暮らすために学生として、看護職としてできることについて考える機会となった。</p> <p>2. 「NPO法人ふれあいの家 おばちゃんち」についての講義を受けた後、学生（19名）は2～3名に分かれ「にじっこ」、「北浜こども冒険ひろば」、「しながわこども冒険ひろば」等の子育て支援事業へ参加した。未就学児や小学生との外遊び、保護者との交流を通じて地域における子育て支援の実際を学んだ。</p> <p>3. 地域ボランティアの学生募集については、次のとおり参加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東五反田地域 あいおい夏祭り 15名 ・若年性認知症当事者就労支援ジャムづくりの話し合い 2名 ・エイズ予防財団主催 エイズデー渋谷街頭キャンペーン 6名 ・八潮地区総合防災訓練 7名 ・第5回わっと！つながるみんなのみらい ファーム・エイド東五反田 12名 ・オレンジフェスタ（品川区認知症啓蒙活動）19名 <p>これらのボランティア活動をとおして、地域住民からその生活ぶりを知り、看護職として何が必要となってくるかを考える機会となった。</p> <p>4. 地域健康づくり研究・教育センターの活動については、【計画56-3】に記載する。</p>				

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分
<p>【計画56-2】 日本バングラデシュ友好病院（JBFH）及び日本バングラデシュ看護師養成学校（JBFNI）における指導者層を対象とする研修を実施する。</p> <p>「計画達成のための方策」 日本バングラデシュ友好病院（JBFH）及び日本バングラデシュ看護師養成学校（JBFNI）における指導者層を対象とする研修について、当初の計画を見直し現実可能な方策を検討し、令和5年度に現地スタッフに対する研修を何らかの形で実施する。</p> <p>「評価指標」 ・研修の実施状況</p> <p>【計画56-3】（令和5年度より新規） 全国・東京都・品川区等の各自治体や地域組織・住民と連携協働し、保健・健康づくりに関連する地域貢献活動を展開し、また、学内外における保健・健康づくりに関する研究・教育の拠点となることを目指す。</p> <p>「計画達成のための方策」 地域健康づくり研究・教育センターを立ち上げ始動する。</p> <p>1. 品川区との連携 ・健康大学しながわにおける運営・評価・イベントへの学生派遣。 ・品川区大崎第一地域センター 町会・自治会 地域絆づくり運営・協力 ・品川区立第三日野小学校との連携（生活科 ボランティア等）</p> <p>2. 東五反田倶楽部・NTT関東病院地域連携室等、地域との連携業務 ・東五反田ファーム・エイド あいおい夏祭、ジャムづくり</p> <p>3. 外部委員・事務局 住民とともに活動する保健師の会 年間事業（東京都委託事業）への学生・教員協力 ・青少年施設（中学生放課後施設）に若者を派遣し教育を行う「HIV啓発拠点4T」事業 ・池袋保健所に開設している「エイズ知ろう館」事業 ・若者が集う「AIDSフェスティバル」事業 ・HIV/AIDS・性感染症対策におけるサイト・SNS運営等の「情報発信」事業</p>	<p>I</p> <p>1. コロナ禍によりバングラデシュとの往来が制限され、本プロジェクトはほぼ活動できていない状況である。令和5年3月現在、ダッカでの高齢者介護施設は建築中で、4月から日本語学校が開校する。</p> <p>2. 研修方法に関する検討は実施できなかった。</p> <p>3. 資金に関する情報収集として、「令和5年度医療技術等国際展開推進事業公募説明会」のオンデマンド配信を視聴した。バングラデシュは事業対象国リストに入っておらず、加点されないことが確認できたため、他の資金源を検討する必要があることがわかった。</p> <p>・研修は実施できておらず、達成状況は著しく低いが、渡航制限の緩和による状況の改善に伴い、活動の再開を検討したい。</p>	<p>【年度計画56-2】 1. 実施可能な方法の検討。</p> <p>「評価指標」 ・研修計画の立案</p> <p>【年度計画56-3】 地域健康づくり研究・教育センターを立ち上げ始動する。</p> <p>1. 品川区との連携 ・健康大学しながわにおける運営・評価・イベントへの学生派遣。 ・品川区大崎第一地域センター 町会・自治会 地域絆づくり運営・協力 ・品川区立第三日野小学校との連携（生活科 ボランティア等）</p> <p>2. 東五反田倶楽部・NTT関東病院地域連携室等、地域との連携業務 ・東五反田ファーム・エイド あいおい夏祭り、ジャムづくり</p> <p>3. 外部委員・事務局 住民とともに活動する保健師の会 年間事業（東京都委託事業）への学生・教員協力 ・青少年施設（中学生放課後施設）に若者を派遣し教育を行う「HIV啓発拠点4T」事業 ・池袋保健所に開設している「エイズ知ろう館」事業 ・若者が集う「AIDSフェスティバル」事業 ・HIV/AIDS・性感染症対策におけるサイト・SNS運営等の「情報発信」事業</p>	<p>I</p> <p>1. ダッカの高齢者介護施設の責任者が9月に来日し、その講演会に参加した。資金および実習受け入れ先の見通した立たず、研修計画の立案は断念した。 本計画は2023年度までとしており、今年度で活動を終了する。</p> <p>IV</p> <p>・品川区や地域と連携を組み活動したり、東京都、エイズ予防財団や日本性感染症学会など広く外部組織とも関係を持ちながら保健・健康づくりに関連する地域貢献活動を行った。</p> <p>1. 品川区との連携 (1) 健康大学しながわ（品川区事業） ・地域健康づくり活動グループ支援運営委託 運営会議・連絡協議会 4回/年実施 ・地域活動グループ活動事業評価：アンケート調査用紙の作成 1回、評価作成 1回の計 2回/年実施 (2) 品川区図書館からの依頼 東京医療保健大学×荏原図書館連携事業 講演会実施 阿部先生 (3) 品川区総務部総務課 平和・国際担当連携 (4) 品川区大崎地域第一センター 町会自治会連合会事業 講演会実施「コロナ禍でもできる地域の絆づくり～まちで楽しく過ごすためのマナー・防災かるたづくり」渡會 その他会議2回実施 (5) 品川区立第三日野小学校との連携（生活科ボランティア等） 大学見学ツアーの実施 打合せ等2回実施 (6) オレンジフェスタ（品川区認知症啓蒙活動）学生19名参加</p> <p>2. 品川区の地域との連携 (1) 東五反田倶楽部・NTT関東病院地域連携室等 ・第5回わっとなつがるみんなの未来ファーム・エイド事前打ち合わせ6回参加（学生1名・教員1名） 当日の学生12名参加 ・東五反田あいおい夏祭り 学生15名・教員2名参加 ・東五反田倶楽部ジャムづくり 学生2名・教員2名参加 (2) 八潮地区総合防災訓練 学生7名・教員1名参加 (3) 品川で性教育を考える会 研修会5回参加、うち講師1回実施</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分
<p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康大学しながわ評価表の作成 2回/年 品川区大崎第一地域センター 連携 3回/年以上 品川区立第三日野小学校との連携 3回/年以上 東五反田ファーム・エイド 会議年 6回 実施1回/年以上 住民とともに活動する保健師の会 年間事業への学生・教員協力 青少年施設 30回/年、エイズ知ろう館 30回/年、若者が集う「AIDSフェスティバル」1回/年、サイト・SNS 更新1回/ 2ヶ月 <p>○医療保健学部医療栄養学科 【計画57-1】 地域の社会課題を解決するため、積極的に社会貢献活動を推進する。</p> <p>「計画達成のための方策」 教員と学生が共同し、大学近郊でボランティア活動を行う。</p> <p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施テーマ数：6件/年 	<p>IV 1. 自主的な料理教室8回に学生が参加し、24名の学生が体験した。高齢期の男性との協働作業とコミュニケーションにより、学生と住民の交流により多くの学びを得ることができた。</p> <p>IV 2. 世田谷区民を対象とした、自主的な男の料理教室の参加者を対象にコロナ禍の食生活に関するアンケートを取った。4グループ（約50人）。アンケート調査結果については検証中である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療栄養学科では本計画以外にも同様の社会貢献活動を複数実施している。そこで、次年度から、本計画を「地域への社会貢献活動の推進」に発展させ、本活動も他の社会貢献活動と共に、その中で進めていく。 	<p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康大学しながわ評価表の作成 2回/年 品川区大崎第一地域センター 連携 3回/年以上 品川区立第三日野小学校との連携 3回/年以上 東五反田ファーム・エイド 会議年 6回 実施1回/年以上 住民とともに活動する保健師の会 年間事業への学生・教員協力 青少年施設 30回/年、エイズ知ろう館 30回/年、若者が集う「AIDSフェスティバル」1回/年、サイト・SNS 更新1回/ 2ヶ月 <p>【年度計画 57-1】 大学近郊でのボランティア活動を継続する。</p> <p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施テーマ数：6件/年 	<p>3. その他活動</p> <p>(1) エイズ予防財団主催 エイズデー渋谷街頭キャンペーン 学生6名・教員1名参加</p> <p>(2) 日本性感染症学会 シンポジスト登壇 学会スタッフ 学生26名・教員2名参加</p> <p>3. 東京都委託事業への学生・教員協力 外部委員・事務局 住民とともに活動する保健師の会 年間事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 青少年施設(中高生放課後施設)に若者を派遣し教育を行う「HIV啓発拠点ふぉーていー」事業 40回/年実施 池袋保健所に開設している「エイズ知ろう館」事業 80回/年実施 若者が集う「AIDSフェスティバル」事業 12/9豊島区中池袋公園にて実施 HIV/AIDS・性感染症対策におけるサイト・SNS運営等の「情報発信」事業の実施 2回/月 <p>IV ・今年度は10件の社会貢献活動に2年生から4年生の学生、延べ88名が参加した。引き続き、継続して実施する予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学習支援等学校でのボランティア活動：2023年4月から10月 玉村園場と連携した野沢こども園での米作りと食育：2023年5月から11月実施 スポーツコミュニティよこすか 健康増進イベント：2023年4月29日、5月3日、10月9日実施 せたがや福祉区民学会第15回大会でのボランティア活動：2023年11月11日実施 ケアコム農園祭：2023年6月4日、11月12日実施 三宿小学校 体験学習：2023年6月10日実施 世田谷区きたざわまつり 栄養相談ブース：2023年10月22日実施 第3回世田谷教育総合センターメッセ 体験学習：2023年12月16日実施 ドナルドマクドナルドハウス せたがやハウス ミールプログラム：2024年3月7日実施 世田谷区男の料理教室支援：2024年3月21日予定 		

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分
<p>【計画57-2】 ⑦ 日本バングラデシュ友好病院（JBFH）及び日本バングラデシュ看護師養成学校（JBFNI）における指導者層を対象とする研修を実施する。</p> <p>「計画達成のための方策」 日本バングラデシュ友好病院（JBFH）及び日本バングラデシュ看護師養成学校（JBFNI）における指導者層を対象とする研修について、当初の計画を見直し現実可能な方策を検討し、令和5年度に現地スタッフに対する研修を何らかの形で実施する。</p> <p>「評価指標」 ・研修の実施状況</p> <p>○医療保健学部医療情報学科 【計画58】 ⑦ 令和3年度に締結した本学医療情報学科と秀傳医療グループとの協定にもとづき、協働でAIoTの医療応用に関する国際論文の掲載又は知財権の取得を行い、その成果を学生にも還元する。</p> <p>「計画達成のための方策」 本学医療情報学科と秀傳医療グループとの協定にもとづき、協働でAIoTの医療応用に関する国際論文の掲載又は知財権の取得を行い、その成果を学生にも還元する。</p> <p>「評価指標」 ・海外における短期研修の訪問件数・参加者数：3件、6名 ・海外からの短期研修等の受入件数・来訪者数：2件、約60名</p>	<p>I</p> <p>・コロナ禍のため2020年以來、バングラデシュとの往来が制限されて、バングラデシュからの介護士の受け入れが激減し、WGの活動はほとんど停止している。現在、ダッカでの高齢者介護施設は建築中で、4月から日本語学校が開校する。またバングラデシュからの介護士、看護補助者の受け入れも増えるので、WGの活動も再開される予定である。</p> <p>IV</p> <p>・産業DX補助事業の一環として秀傳医療グループの劉副院长（五反田）、台北医学大学の王副看護部長（オンライン）にご講義いただき、医療保健学部3学科から103名の学生が受講した。また、劉副院长のご講義は計画15-1の書籍にも掲載した。 また、3月20～22日の3日間、他学科等を含め4名の学生が台中市の劉傳医療グループの病院・施設を訪問した。今後も交流を継続していきたい。</p>	<p>【年度計画57-2】 1. 感染状況に応じて本邦研修もしくはオンライン研修の実施。</p> <p>「評価指標」 ・研修の実施状況</p> <p>【年度計画58】 協定の1回目更新を行う。また、コロナの状況により、（感染が一段落している場合は）日台のいずれかが訪問して対面勉強会を行い、（感染が続いている場合は）公開形式のオンラインシンポジウムを行う。</p> <p>「評価指標」 ・海外における短期研修の訪問件数・参加者数：3件、6名 ・海外からの短期研修等の受入件数・来訪者数：2件、約60名</p>	<p>III</p> <p>・2023年7月初めにバングラデシュを訪問し、日本とバングラデシュの高齢者介護施設の現状と課題および展望について意見を交換した。また、ダッカの日本語学校での授業を見学し、日本への派遣介護士の養成状況を視察した。さらに、ダッカ郊外の介護施設建築現場を訪問・視察した。 ・2023年9月14日にバングラデシュから日本バングラデシュ友好財団理事長ナイーム先生を当大学に招聘し、バングラデシュの医療事情・介護施設の現状および将来について、当大学で講演していただいた。 ・今後は日本へ受け入れるバングラデシュからの看護補助者、介護士に対する教育・支援を検討していく。</p> <p>IV</p> <p>・アウトバウンドについては、単位科目として「インターシップ（海外型）」を設定し、学生5名が履修した。また「医療情報ゼミⅡ」の一環として、学生7名が訪問し、台湾医療保健AIoT協会から学生奨励賞を受賞した。 ・インバウンドについては研修受け入れはないものの、総合研究所とも連携してホームケア支援システムの共同開発を行い、その打ち合わせのため台湾側技術者2名の受け入れを複数回行った。</p> <p>・その他、本学科教員、他学科教員及び客員教員（NTT東日本関東病院職員）の計3名が、日本医療情報学会内の活動として本学提携先病院を訪問し、合同研究会を開催した。交流機会を大幅に拡大した成果は、2024年度に同学会を通じて書籍として取りまとめる予定である。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分	評価区分	評価区分
<p>○東が丘看護学部 【計画59-1】㊦ 目黒区との共催で実施しているひがしが丘保健室の年間の総来場者数を増加させる。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. ひがしが丘保健室の開催。 2. ひがしが丘保健室便り（過去の参加者へのお便り）の発行。 3. 出張型ひがしが丘保健室の開催。</p> <p>「評価指標」 ・ひがしが丘保健室の年1回開催 ・ひがしが丘保健室便り（過去の参加者へのお便り）の年4回の発行 ・出張型ひがしが丘保健室の年2回開催 ・ひがしが丘保健室来場者の参加した各コーナーの満足度の平均：95.0%</p>	<p style="text-align: center;">Ⅲ</p> <p>1. 令和4年度5月に地域住民に対し、本学院生がひがしが丘保健室便りを200部作成、発送を行った。目黒区民114部、世田谷区民56部、その他30部であった。今回の便りは認知症予防・認知機能の向上がテーマであった。内容について、「良い」または「大変良い」を合わせた回答が約84%であった。今回から動画を取り入れ、90%の人が今後も動画コンテンツを希望するなど、高評価であった一方で、QRコードを読み込めなかった人が40%いたなど課題も見えたため、動画視聴の仕方を詳しく説明するなど引き続き改善していく必要がある。一方で評価のためのアンケートの回収率は13%と低く、切手代が回答者の負担となっていることも理由の一つと考えられ、こちらについても検討の必要がある。</p> <p>・小規模出張型のひがしが丘保健室の開催が実現し、ひがしが丘保健室便りの発行回数が減少した。</p> <p>2. 院生が主体となって目黒区の地域における自立支援イベント「支え合い・いどばた会議」に参加し、2つ以上のことを同時に行う「マルチタスクトレーニング」による認知症予防の健康教育を企画・実施した。住民からは笑顔も見られ、和やかな雰囲気となり「アンコール」の言葉を頂いた。</p> <p>・人的資源や費用面、依然としてコロナの影響もあり、今後も大規模な保健室の開催は難しい可能性が高いため、【計画59-2】、【計画59-3】を重点的に行っていくことで地域に継続的な貢献を行い、地域住民に認知していただけるように努めたい。小規模出張型の保健室の評価指標が曖昧であったため、今後は可能であればアンケートなどを取って評価していきたい。</p>	<p>【年度計画59-1】 1. ひがしが丘保健室の大学での開催。</p> <p>「評価指標」 ・ひがしが丘保健室の大学での開催 ・ひがしが丘保健室来場者の参加した各コーナーの満足度の平均：85.0%</p>	<p style="text-align: center;">Ⅲ</p> <p>1. 令和5年7月、公衆衛生看護コースM2院生がひがしが丘保健室便りを発行し、地域住民に201部送付した。目黒区内の施設や老人会での配布が可能であったため、追加で区内施設に93部配布した。大学HPに掲載され昨年度よりも周知の幅が広がった。また、昨年度、アンケート回収率の低さから返送時の切手代が回答者の負担となっている可能性を考えたため、評価のためのアンケートの返送を、料金後納郵便を使用したものの、回収率は13%（R4）→16%（R5）と微小な変化であった。発行回数としては1回と少なかったが、Covid-19が5類感染症に移行された後で感染症専門家へのインタビューも含んだ貴重な内容であった。回答者からも具体的でわかりやすいなどの意見があった。アンケート回答者は女性の割合が65%と少し高かったが、96.8%がお便りの内容について「よい」、または「大変良い」と回答していた。一方で、アプリのダウンロード方法を紙面に載せるなどしても高齢者には伝わりにくいという限界もあった。いっそう簡単で理解可能な地域高齢者への情報提供方法の工夫が必要である。</p> <p>2. 令和5年9月13日（水）午後には、地域住民が21名参加した「ダレデモ・カフェ」、令和5年10月6日（金）午後には46名参加の「支え合い・いどばた会議」と、2回に及び公衆衛生看護コースの院生が目黒区地域高齢者に向けて健康教育の場を得て、脳トレや手遊び等を実施した。目黒区社会福祉協議会との話し合い、要請により、今年度は計画よりも多い2回の実施となった。今回、参加者はとても意欲的な態度で健康教育に参加して下さっていたが、プログラムに住民の感想を聞くなどの評価となる内容が不足していたため、評価は実施者による主体的なものにとどまった。次回以降は感想を聞く時間を設けるなど参加者の意見を大切に自然な形で評価しPDCAサイクルを意識していきたい。</p> <p>次回以降の課題はあるものの令和5年度計画はおおむね達成していると考えられた。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分	評価区分	評価区分
<p>【計画59-2】 地域母子保健活動として、妊娠期からの切れ目のない母子への支援をさらに強化する。また、“まちの助産室”活動の評価として、データをまとめ、母子保健に関連する学会などにて発表を行い、地域母子保健事業と助産師教育へ役立てる。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 実施している“まちの助産室”を、妊娠期のパパママ教室、その後、産後・子育て期へと継続的に実施できる体制へと整備し、さらに、大学院教育との連携として、大学院生も参加する。 2. “まちの助産室”活動の評価として、データをまとめ、母子保健に関連する学会などにて発表を行い、地域母子保健事業と助産師教育へ役立てる。</p> <p>「評価指標」 ・中学生に対する思春期性教育の実施状況 ・まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施状況 ・まちの助産室：産後クラスの実施状況 ・関連学会での活動の公表状況 ・自治体との連携状況</p>	<p style="text-align: center;">IV</p> <p>1~4. 全国の自治体の母子に対して、1回1時間のオンライン母子支援プログラムとして、ベビーマッサージ、童歌、母乳相談、育児相談、座談会を行った。開催数は9回であり参加者数は54組101名（双子3組）であった（2月末までの算出）。今年度も昨年と同様に、対面ではなくオンラインに方法で実施した。ICTを用いて育児中の母親の抑うつおよび悩みを軽減することができた。また、その実践報告を26th East Asian Forum of Nursing Scholarsで公表した。学部生および大学院生の見学により地域貢献を学ぶ教育機会となった。 また、小児看護領域では、親子を対象に『楽しくアロマ石鹸作り』を企画しました。好評のため3回（4/29、8/24、3/4）にもわたり実施し、親子合わせて159名の参加がありとても喜ばれました。</p>	<p>【年度計画59-2】 1. 中学生に対する思春期性教育の実施を継続する。 2. まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施を継続する。 3. まちの助産室：産後クラスの実施を継続する。 4. 自治体と連携する。</p> <p>「評価指標」 ・中学生に対する思春期性教育の実施状況 ・まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施状況 ・まちの助産室：産後クラスの実施状況 ・関連学会での活動の公表状況 ・自治体との連携状況</p>	<p style="text-align: center;">IV</p> <p>1~4・全国の自治体の母子に対して、1回1時間のオンライン母子支援プログラムとして、まちの助産室を企画運営した。内容はベビーマッサージ、童歌、母乳相談、育児相談、座談会を行った。開催数は9回であり参加者数は41組84名（うち双子2組）であった。今年度も昨年と同様に、対面ではなくオンラインに方法で実施した。ICTを用いて育児中の母親の抑うつおよび悩みを軽減することができた。学部生および大学院生が見学し、地域貢献、助産ケアを学ぶ教育機会となった。 ・妊娠期のパパママ教室の代わりに、プレコンセプションケアを大学院生が学部生10名に対して実施した。若い世代の女性とパートナーのためのヘルスケアの教育機会となった。 ・昨年までの実践報告をJapanese Journal of Nursing and Health SciencesおよびThe 26th East Asian Forum of Nursing Scholars Conferenceで公表した。 自治体との連携として碑文谷保健センターの募集協力を得ることができた。総合病院の産科病棟および産科外来での募集のために臨床のスタッフとも連携ができています。産後支援が必要な母親に対して、産後1か月健診で、まちの助産室参加の案内が行われた。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分	評価区分	評価区分
<p>【計画59-3】 大学の国際化を進め地域の国際化に寄与する。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 学生・教員に係る海外派遣・海外研修等を実施する。 2. 海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会を積極的に推進する。 3. 海外の看護系大学と学術交流を推進する。</p> <p>「評価指標」 ・学生・教員に係る海外派遣・海外研修等の実施状況 ・海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会の実施状況 ・海外の看護系大学と学術交流の状況</p>	<p>IV</p> <p>1～4. 選択科目国際看護学Ⅱの授業展開を初めて実施した。英語TOEICを受けた学生から選択。自調自考の精神を発揮し、全てシラバスにある目標を達成するために2人から3人のグループを作り、日本にある国際機関の調査、施設訪問し、現在の日本に於いてより良く外国人に支援・対応するためにどう関われば良いか。自分達の課題を問い直し目標化する。クラスで発表し討議して纏める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生は町の中で知らない外国人へ自分達が作成した英語の質問肢に基づき、働きかけをし、調査を実施続けた。 ・海外からの留学生・研究生はコロナ禍で期間的に難しかった。 ・海外の講師活用については大学院NPコースに於いて、ズームによるクラス全体の講義を聞いた。 	<p>【年度計画59-3】 1. 全学委員会と連携し、学生の海外研修の参加募集・PRを積極的に行う。 2. 現地開催・オンラインの双方に学生が円滑に参加できるよう支援する。 3. 海外からの講師の招聘による講演会はFD委員会等と連携し開催する。 4. オンライン海外研修の評価の学会公表により、多文化共存の研鑽に役立てる。</p> <p>「評価指標」 ・学生・教員に係る海外派遣・海外研修等の実施状況 ・海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会の実施状況 ・海外の看護系大学と学術交流の状況</p>	<p>IV</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東が丘看護学部では、3年前から入学生に全員TOEICを受けて頂き、年間2回実施し、2回目以降は自主的に受験している。更に昨年より外国人2人による学生ホールでの「イングリッシュカフェ」を開催し、学部生、大学院生も積極的に参加し学生ホールは英語で賑やかに活気あふれている状況となっている。勿論英語力も向上し、令和5年度全学国際交流委員会主催のオーストラリア研修には学部生は5名と教員1名が参加した。 ・ハワイでNPとして働いている非常勤講師により、学部生はオンライン授業、大学院生は対面で講義を受けた。米国の保健医療制度の特徴などの講義を受け学生達は高い関心を示した。日本と異なる医療制度等に関心が高まった。 ・国際看護学Ⅱを選択した学部学生は、「国境なき医師団」の事務所にコンタクトを取り、自主的に医師の活動状況を直接関係者から聞き、ミャンマーやカンボシアへの支援の実態を確認できた。他のグループの学生も岡山に住む医師からズームで詳細な支援の話を行い、一時間以上の質疑応答を行い途上国の看護師に対する考えや価値観の多様性を重視することの必要性を認識した。 ・更に大学院生26名は、国立成育医療研究センターの病院長先生から、肝臓の移植手術の研究開発をし、先端医療の提供をするために、個人の時間を使い、ボランティアの精神で、途上国の肝疾患で病んでいる子供たちを助けるために、年間何度も途上国へ出かけ手術を行い、通常の業務に差し支えないように土日や休みを使用し、病む子供たちを助けている実態を聴き、手術方法の研究プロセスを学ぶと共に、世界中に手術方法を広め、難病の子供たちの命を救っている医師の貴重な話を直接聞き、全員が感動し、看護の役割を改めて考えさせられた。学部学生、大学院生共に国際的に活動している日本人医師の講義から視野が広がり、先進国だけでなく途上国の医療の在り方や医療者に対する関心が大いに高まった。 		

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
						評価区分		評価区分	
<p>○立川看護学部 【計画60】㊦ 国際交流研修の申し込み人数を一定数確保する。</p> <p>「計画達成のための方策」 国際交流研修の申し込み人数を一定数確保するため、学年担任や全学生に対して積極的にPRを進めていくとともに、参加した学生の研修結果をメール配信するなど、学生が興味関心を引くような情報提供や研修参加者の声を伝えていく。</p> <p>「評価指標」 ・国際交流研修の申し込み状況</p> <p>○千葉看護学部・看護学研究科 【計画61-1】㊦ 地域との協働・共生に関する理解を深める。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 千葉看護学部における『地域連携・共生に関する活動方針』を作成し、活動方針に基づく活動が行われているかを評価する。</p> <p>【評価指標】 ・検討会開催回数（3回/年）、検討会参加人数（5人/回）、活動評価結果（1回/年）</p> <p>2. 学生が地域との協働・共生を学ぶ環境を支援する。</p> <p>【評価指標】 ・ボランティア等の活動に関する情報提供回数（4回/年）、各活動の参加人数（5人/回）、活動評価（1回/年）</p> <p>3. 地域貢献及び地域に本学を理解してもらうために地域交流イベントを開催する。</p>	IV	<p>・オーストラリア研修への参加は、4年生1名だけであったが、ハワイ研修については、学長裁量経費の補助もあったため、参加者は13名（3年11名、1年2名）であった。</p>	<p>【年度計画60】 国際交流研修の申し込み人数2人/年または2人/回をめざす。</p> <p>「評価指標」 ・国際交流研修の申し込み状況</p>	IV	<p>9月のオーストラリア研修に1年生2名 12月の中国研修に2年生1名 3月のオーストラリア研修に2年生5名、3年生6名の11名 年間で14名の参加者がおり、参加者の満足度は高かったようである。</p>				
	II	<p>1. 『地域連携・共生に関する活動方針』の作成検討委員会で活動方針を検討する。（偶数月に会議を開催する）→ 6月に1回開催（WGメンバー全員4名が参加）したが、それ以降は開催できなかった。</p>	<p>【年度計画61-1】 1. 『地域連携・共生に関する活動方針』作成委員会を設置しFD委員会と共同し地域連携活動の将来像を考える会を開催するとともに、地域交流イベントにおいて参加者から情報を収集する。</p> <p>【評価指標】 ・検討会開催回数（2回/年）、検討会参加人数（5人/回）、活動評価（1回/年）</p>	II	<p>1. 学部FD活動の一環として定期FD報告会において意見交換を行ったが、『地域連携・共生に関する活動方針』作成委員会を設置するには至っていない。地域交流イベントにおいては、参加者を対象とした意見収集を実施した。次年度はワーキンググループを設置し、今年度に収集した意見から焦点化をはかり、中期的な計画を立案する予定とする。</p>				
	III	<p>2. 社会福祉協議会で実施しているボランティア活動の情報収集と情報提供を行った（1回）。</p>	<p>2. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している事業やボランティア案内などの情報提供を行う。</p> <p>【評価指標】 ・ボランティア等の活動に関する情報提供回数（4回/年）、各活動の参加人数（5人/回）、活動評価（1回/年）</p>	III	<p>2. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している事業について、「ふなばし夏のボランティア」の案内を5月に、「マナフェス」ボランティア案内を10月の計2回実掲示した。各活動の参加実績は把握していない</p>				
	IV	<p>3a. 第2回地域交流イベントを11月29日に実施し164名の来場者及び79名の学生、10名の入学予定者、教職員43名の参加があった。参加者の満足度（みなさんの声を聞かせてください、公開講座1&2）では70%以上の満足と回答していた。 3b. 船橋市都疎浜自治会（社協メンバー含む）の高齢者向け活動への支援を申し入れ、話し合いを行った。（老年・在宅）</p>	<p>3. a. 前年度の振り返りを反映し、船橋市の地域住民・行政・保健福祉機関等と大学がより交流できるイベントを計画・実施・評価する。 b. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会のメンバーと情報交換を行う。</p>	IV	<p>3. a-1) 11月5日 ふなばし健康まつりに学生と教職員が参加し本学の広報活動とボランティア活動を行った。参加人数は教職員9名、学生32名でした。 ・ a-2) 地域交流イベント2023を3月24日に開催し254名の参加者があった。 ・ b-1) 船橋市まつりへの参加、および地域交流イベントの広報活動により船橋市地域包括ケア推進課、保健福祉課、地域福祉課、船橋市社会福祉協議会、船橋市教育委員会、船橋市自治会、船橋市民生児童委員協議会などと顔の見える関係構築ができた。</p>				

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分
<p>【評価指標】 ・地域交流イベント参加人数（100人）、参加学生数（100人）、参加教員数（20人）、参加者の満足度（満足度70%以上）</p> <p>4. 学部及び教員が地域のリソースとして活用される仕組みを整え、活用が促進される。</p> <p>【評価指標】 ・高校からの模擬授業等の依頼件数（3件以上/年）、地域からの講師依頼件数（1件/年）、JCHOや関連施設からの講師依頼件数（1件/年）、勉強会等の実施回数（1回/年）、各参加者の満足度（70%以上）</p> <p>【計画61-2】 ⑦ 学際的な共同研究や海外研修等を促進し、成果を発表する。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 複数領域、学外者及び学際的な共同研究への参加を促進し、成果を発表する。 【評価指標】 ・複数領域、学外者及び学際的な共同研究件数、発表件数</p> <p>2. 海外研修や学外研修への参加を促進し、その成果について共有する。</p> <p>【評価指標】 ・研修参加者（教員1名以上/各回海外研修）、研修内容とその評価（参加教員数/FD報告会）、成果共有による評価</p>	<p>IV 4. 8月の定期FD研修において、「THCUCによる地域貢献活動について考える」というテーマで意見交換を行った。その際、教育機関として大学の場の活用だけでなく、教員が活用される仕組みについて今後、検討していくのが良いとの意見交換などがなされた。 ・高校から依頼の模擬授業を9校で実施した。熱心に参加する生徒が多かった。</p> <p>IV 1. 活動報告会において情報共有をしたが、部分的な情報共有となった。別途、アンケートを実施し、その結果を情報共有している。 ・複数領域の共同研究：課題件数0件、発表0件 ・学外者との共同研究：課題件数33件、発表7件 ・学際的な共同研究：課題件数4件、発表4件</p> <p>III 2. 9月にオーストラリアのグリフィス大学（研修参加者学部生1名/教員2名支援教員）、3月にハワイのシャミナード大学（研修参加者学部生2名・大学院生1名・教員1名/教員2名支援教員）とオンライン留学を実施し、学生参加を積極的に推奨し、情報発信を行った。加えて、「世界の医療ケアを知ってみよう！」との企画のもと、リレー講演会の開催（3回）などを学内で積極的に参加推奨を行った。 ・年度末に学部活動報告を行い、情報共有を行ったものの、本件に焦点化した成果共有は実施していない。</p>	<p>【評価指標】 ・地域交流イベント参加人数（100人）、参加学生数（100人）、参加教員数（20人）、参加者の満足度（満足度70%以上）</p> <p>4. a. 令和4年度に検討する仕組みに則り、教員がリソースとして地域で活用されることを促す。 b. 学生募集部・事務部と協働し、高校訪問に模擬授業等のニーズを把握し、適切な教員を派遣する。</p> <p>【評価指標】 ・高校からの模擬授業等の依頼件数（3件以上/年）、地域からの講師依頼件数（1件/年）、JCHOや関連施設からの講師依頼件数（1件/年）、勉強会等の実施回数（1回/年）、各参加者の満足度（70%以上）</p> <p>【年度計画61-2】 1. 年度末の学部活動報告会等で情報共有を行う。</p> <p>【評価指標】 ・複数領域、学外者及び学際的な共同研究件数、発表件数</p> <p>【評価指標】 ・研修参加者（教員1名以上/各回海外研修）、研修内容とその評価（参加教員数/FD報告会）、成果共有による評価</p>	<p>III 4. a. 教員がリソースとして活用される仕組みについては、令和4年度、5年度ともに仕組みとしての検討を行うことができなかった。ただし、領域や教員個々の活動として地域のリソースとして多くの活用がされた。次年度はこの実績が大学ビジョンに向かって発展できるように「仕組み」化について検討することが課題である。 b. 高校からの模擬授業の依頼6件および高校からの依頼による大学見学を2件実施した。いずれも参加者の満足度は高かった。</p> <p>III 1. 学部活動報告会を実施し、ポスター展示を通じて研究・学内外活動について総合的に情報共有した。 ・複数領域の共同研究：課題件数8件、発表5件 ・学外者との共同研究：課題件数36件、発表20件 ・学際的な共同研究：課題件数10件、発表4件</p> <p>III 2. a. 本学主催の海外研修の参加を推奨し、9月と3月のオーストラリアグリフィス大学の準備・運営を以下の通り、行った。 ・9月：オンライン研修の募集、事前準備・研修中のサポート、千葉学生2名、教員3名で支援 ・3月：現地研修の募集、事前準備のサポート、教員による現地引率、千葉学生10名、引率教員1名、支援教員2名 「世界の医療ケアを知ってみよう！」リレー講演会（3回）の参加推奨を行った。 「バングラデシュの医療・介護の現状と未来」特別講演会の参加推奨を行った。 中国の燕山大学との初オンライン交流参加学生を推薦した。 b. 年度末に学部活動報告を行い、情報共有を行った。実施についてまとめ、成果共有を2024年前期に行う予定である。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>【計画61-3】 ⑦</p> <p>千葉看護学研究科として住民のニーズに応える保健医療の連携に貢献する。</p> <p>「計画達成のための方策」</p> <p>地域交流イベントにおいて、学生を主体とする企画を実施し、主として西船橋地区住民のニーズに応える保健医療の連携に貢献する。</p> <p>【評価指標】</p> <p>専門職からなる情報交換会の開催数、活動報告発表数</p> <p>【計画61-4】 ⑦</p> <p>千葉看護学研究科の教職員の教育力を開発する。</p> <p>「計画達成のための方策」</p> <p>日々の教育活動に関する情報共有を行うとともに、課題を整理し、多文化共存を視野に入れた研究指導を含めた教育力、大学院での活動を通しての地域貢献力について、研修を実施することで、その向上を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <p>大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会等の開催回数、地域貢献力に関する報告の数</p> <p>○和歌山看護学部・看護学研究科</p> <p>【計画62-1】 ⑦</p> <p>臨地実習での多職種連携場面での学びの促進を図るとともに、多職種との交流によりチーム医療を実践できる医療士を育成する。</p> <p>「計画達成のための方策」</p> <p>1. 学内教育においては臨地からの多職種の教育参加により、臨地での意図的な多職種連携の体験する機会をつくる。</p> <p>2. 多職種・他大学学生とチーム医療・他職種連携の体験を共有する機会を設ける。</p> <p>【評価指標】</p> <p>・近隣大学との連携状況、多職種連携状況、実習での体験状況、演習での実施状況</p>	II	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流イベントにおいて学生を主体とする発表を行った：1回 ・本発表を実践報告として次年度（令和5年度）紀要ならびにJCHO学会に発表予定である。 	<p>【年度計画61-3】</p> <p>専門職からなる情報交換の会を継続し、ニーズの把握とともに活動成果を検討する。</p> <p>成果を活動報告として紀要等に発表する。</p> <p>【評価指標】</p> <p>専門職からなる情報交換会の開催数、活動報告発表数</p>	III	<ul style="list-style-type: none"> ・3月24日に開催された地域交流イベントにおいて、研究科学生による演習成果発表会を行った。成果の一部をJCHO学会において発表した。令和6年度は、それまでの活動を令和7年度紀要に発表することをめざして成果の整理を行う予定とする。 				
	II	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌山看護学研究科との共催で「修士論文作成における学びの過程と指導・支援のポイント」と題して大学院FD研修会を行った。千葉看護学研究科教員21人、事務職員1人の参加があった。 ・千葉看護学研究科としての情報交換・研修会・授業参観の開催はなかった。 ・令和5年度は、大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会に取り組んでいく。 	<p>【年度計画61-4】</p> <p>研究科FDとして多文化共存についての勉強会を開催する。</p> <p>【評価指標】</p> <p>大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会等の開催回数、地域貢献力に関する報告の数</p>	I	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉看護学研究科としての情報交換・研修会・授業参観の開催はなかった。 ・研究科FDとして、多文化共存についての勉強会は実施しなかった。令和6年度は、大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会に取り組んでいく。特に、必修科目「ヘルス・グローカリゼーション」を生かした研究科FDを検討する。 				
II	<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム和歌山からの各種フォーラムや合同研修、タウンミーティングなどの情報を得た。講義・演習ではゲストスピーカーとして多職種の参加を得て実施し、実習においても目標として掲げ、臨地において体験している。 ・公開講座を和歌山市と共催で実施し、学生ボランティアの参加を経て他職種とともに地域貢献している。 ・コンソーシアムの各種企画に参加者がいなかった。次年度は参加者を増やすための呼びかけを行うほか、他のAP等の活動とコラボできるように検討したい。共同プロジェクト事業に1件が採択され活動している。講義・演習・実習において各領域において多職種連携の体験をしているので、情報共有していく必要がある。和歌山市と共催し、公開講座を実施した。 	<p>【年度計画62-1】</p> <p>1. チーム医療・多職種連携に関して実習計画に反映し、実施する。</p> <p>2. 近隣大学との教育連携を呼びかける。</p> <p>3. 可能な領域でチーム医療・多職種連携に関する体験の機会を設ける。</p> <p>【評価指標】</p> <p>・近隣大学との連携状況、多職種連携状況、実習での体験状況、演習での実施状況</p>	III	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い次週施設で多職種連携を経験しており、実習施設と本学部が共通する多くの研修の機会を持っている。 2. 研修の呼びかけは積極的には実施できなかったが研修や発表会への参加はできた。 3. 1月に行われた精神看護学シンポジウムについては、一般の参加者を含め140名を越え、大変好評であった。 					

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分
<p>【計画62-2】 ⑦ 地域の教育機関、保健医療福祉施設、自治体等との共同体制の下、医療・福祉・保健面における社会貢献を積極的に推進する。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 本学部の社会貢献の実践・可能性を発信し、異分野の大学との共同研鑽を行うとともに地域のニーズに応じた社会貢献を実践する。 2. コンソーシアム和歌山の教員及び学生の共同研究に参画する。</p> <p>【評価指標】 ・情報発信と社会貢献の実践数、ICTを活用した会議数、コンソーシアム和歌山の共同研究採択状況</p> <p>○助産学専攻科 【計画63】 ⑦ キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 学生が地域貢献できる学修環境の実現。 2. 連携・共生の在り方を学ぶ。 3. 大学キャンパス内の地域活動の貢献とともに、活動状況の広報を行い、さらなる拡大を目指し整備する。 4. 医療機関にはできない訪問型のきめ細やかなサービスの提供、地域的なニーズにも沿った対応ができる体制の構築を整える。</p> <p>「評価指標」 ・地域母子支援の助産師活動への参加機会の確保 2～3回/年</p>	<p>IV</p> <p>1. 情報発信するためのニーズ調査を行った。学内の様子など情報発信についてはInstagramやホームページを用いて発信し続けている。 2. Zoomのほかにも複数のコミュニケーションツールの紹介をしている。 3. 令和4年度の学生の共同研究には応募がなかったが、共同プロジェクト研究に応募した。 ・情報発信ツールについては、高校生はInstagram、高齢者はFacebookやチラシから情報を得ていることがわかった。さらにネットワークを拡大して本学の魅力を発信していく。共同プロジェクト研究に1件が採択された。</p> <p>IV</p> <p>事業継続のため、地域のニーズに応えることのできる継続従事者となる人材育成を育成する。 1. 訪問型は、報酬が6000円で交通費がでないので従事希望者が少ないために、働きやすい職場となるよう従事者の待遇改善として記録をする時間の確保を含め、2000円の追加を実施している。 2. 日帰り型はホテルで実施しているが、従事する助産師1人での対応となる。そのため、事故防止のため、開始前後の事務への連絡を対象者の前で実施すること、乳幼児突然死予防のため、アプネアマットセンサーを導入し、従事者が働く場の安全の確保と心の安寧を維持を図っている。 3. 日帰り型はこれまでホテルでの運営としてきたが、通所型として、外来機能などへの拡大を検討して、ホテル1部屋で1人/日としてきたが、保健センター内での診療スペースを確保して頂き、そちらで2人/日として、診療する対象者数を2人とする予定としている。</p>	<p>【年度計画62-2】 1. 本学部の活動を発信する。 2. ICTを活用した会議の効果的な活用を行う。 3. コンソーシアム和歌山の教員及び学生の共同研究に応募し、1件以上採択を得る。 4. 県看護協会の委員会活動、研修会講師等で積極的に支援する。 5. 市と共催の公開講座の定期的開催を継続する。 6. 県・市・地域からのボランティア要請に協力する。</p> <p>【評価指標】 ・情報発信と社会貢献の実践数、ICTを活用した会議数、コンソーシアム和歌山の共同研究採択状況 ・委員会数、研修会講師受諾数、公開講座開催有無、ボランティア参加数</p> <p>【年度計画63】 活動の継続と拡大を図る。 1. 活動の広報：学会や市民講座・交流集会などでの広報活動を行う。 2. 母子支援に関する論文投稿を行う。 3. 日帰り型、訪問型、電話訪問・電話相談の検討と通所型、外来機能などへの拡大を検討する。</p> <p>「評価指標」 ・地域母子支援の助産師活動への参加機会の確保 2～3回/年</p>	<p>IV</p> <p>1. SNSを用いた情報発信に重点を置き、事務部が中心となり、教職員で連携し活動を展開した。 2. ICT活用は各種のツールの活用が進んでいる。 3. 教員共同研究に複数応募し1件が採択された。 ・コンソーシアムにおいて採択され教員の近隣大学との共同研究が採択された。学生共同研究は応募できなかった。</p> <p>IV</p> <p>年度計画1～3を通して下記の学びに繋がった。 活動範囲が拡大し、いろいろな場で活動や体験することにより、 ・20名全学生が、助産学実習Ⅴの一環として、産後ケア研究センターの見学実習を体験でき、地域における母子の現状を理解でき、医療機関にはできない訪問型や日帰り型、電話相談などのきめ細やかなサービスの提供、地域的なニーズにも沿った対応ができる体制に触れ、地域母子保健における課題の明確化に繋がった。 ・また助産学実習Ⅳでは、地域の母子を対象とした1～2か月および3～4か月の母子支援クラスを企画運営、開催し、母親のメンタルヘルスの支援や児の発達評価など実践し、学生は実際の体験から学ぶと共に、参加者の満足度も高く、地域の母子に対するケアへの貢献に繋がった。 ・助産学研究を通して論文作成をし、発表に至れるよう行動している。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
						評価区分		評価区分	
<p>○和歌山助産学専攻科 【計画64】 和歌山県の抱えるローカル化の問題を解決するために「遠隔診療技術の基礎」を選択科目としたカリキュラム編成を行い、遠隔授業で、僻地医療の問題を解決するための基礎力を養成する。</p> <p>「計画達成のための方策」 和歌山県の抱えるローカル化の問題を解決するために「遠隔診療技術の基礎」を選択科目としたカリキュラム編成を行い、医療情報学科の教授を講師に迎え、あらゆるICTを駆使し遠隔授業で、僻地医療の問題を解決するための基礎力を養成する。</p> <p>「評価指標」 ・「遠隔診療技術の基礎」の履修又は聴講状況</p> <p>○感染制御学教育研究センター 【計画65】 「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を継続する。</p> <p>「計画達成のための方策」 「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を、社会貢献のひとつとして、ニーズのある限り継続していく。</p> <p>「評価指標」 ・「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」の開催状況及び受講者数</p>	IV	<p>・ガイダンスで当該科目の意義を説明したところ全員が選択した。</p> <p>・授業アンケートでは「基本的な専門知識」「新しい考え方や発想」「発展的な学び」「総合的に満足」の問いに全員が「思う」と回答した。助産学実習Ⅲ（両親学級の企画・運営）をハイブリッドで行ったが、方法だけではなく、法律や注意点について理解できたという声を学生から聴けた。</p>	<p>【年度計画64】 ガイダンスで「遠隔診療技術の基礎」の選択の必要性を説明し、学生全員が履修又は聴講する。</p> <p>「評価指標」 ・「遠隔診療技術の基礎」の履修又は聴講状況</p>	IV	<p>・ガイダンスで意義を説明し、全員が選択した。今年度の授業アンケートは閲覧できなかったが、学生全員が意識して取り組んだものと思われる。</p>				
	IV	<p>・令和4年度は「感染制御実践看護学講座」では23名が所定の課程を修了し同数が「感染制御実践看護師」の資格を取得した。</p> <p>・「感染制御学企業人支援講座」は2名の企業人が参加し、所定の課程を修了した。</p>	<p>【年度計画65】 「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を、社会貢献のひとつとして、ニーズのある限り継続していく。</p> <p>「評価指標」 ・「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」の開催状況及び受講者数</p>	III	<p>・「感染制御実践看護学講座」では募集人数20名に対し45名の申請者があり、受講試験の結果23名を合格とした。23名は所定の課程を修了し、「感染制御実践看護師」の資格を取得した。</p> <p>・「感染制御学企業人支援講座」については例年どおり募集を行ったが、応募者がなかった。</p> <p>・「感染制御実践看護学講座」「感染制御学企業人支援講座」の需要数について今後検討していく。</p>				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議																																							
<p>〇産後ケア研究センター 【計画66】㊦</p> <p>大学キャンパス内外の地域活動に貢献するとともに、活動状況の広報を行い、さらなる拡大を目指し整備するとともに、医療機関にはできない訪問型のきめ細やかなサービスの提供、地域的なニーズにも沿った対応ができる体制の構築を整える。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 産前産後ケア事業〔助産師による専門的支援の実施（訪問型）〕の推進。 2. 品川区役所や産科医療機関との連携強化事業の強化（情報交換など）を図る。</p> <p>「評価指標」 ・日帰り型 190件／年→280件／年への増加 ・訪問型 200件／年→280件／年への増</p>	III	<p>1. 訪問型は、報酬が6000円で交通費がでないので従事希望者が少ないために、働きやすい職場となるよう従事者の待遇改善として記録をする時間の確保を含め、2000円の追加を実施している。 2. 日帰り型はホテルで実施しているが、従事する助産師1人での対応となる。そのため、事故防止のため、開始前後の事務への連絡を対象者の前で実施すること、乳幼児突然死予防のため、アプネアマットセンサーを導入し、従事者が働く場の安全の確保と心の安寧を維持を図っている。</p> <p>「評価指標」実施件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度(2月時点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・日 帰</td> <td>325</td> <td>162</td> <td>228</td> <td>223</td> </tr> <tr> <td>・訪 問</td> <td>344</td> <td>127</td> <td>194</td> <td>202</td> </tr> <tr> <td>・電話相談</td> <td>639</td> <td>925</td> <td>367</td> <td>348</td> </tr> </tbody> </table>		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度(2月時点)	・日 帰	325	162	228	223	・訪 問	344	127	194	202	・電話相談	639	925	367	348	<p>【年度計画66】 活動の継続と拡大を図る。 1. 活動の広報：学会や市民講座・交流集会などでの広報活動を行う。 2. 母子支援に関する論文投稿を行う。</p> <p>「評価指標」 ・日帰り型 190件／年→280件／年への増加 ・訪問型 200件／年→280件／年への増</p>	III	<p>1. 訪問型は、報酬が6000円で交通費がでないので従事希望者が少ないために、働きやすい職場となるよう従事者の待遇改善として記録をする時間の確保を含め、2000円の追加を実施している。 2. 日帰り型はホテルの閉鎖に伴い、8月からの荏原保健センター内での産後ケア室の開設に至るまでの期間、品川保健センター内での実施となった。仮設での実施のため、一時期利用が減少したが、8月以降の正式な開設後は利用者が増加傾向にある。訪問型は増加している。次年度以降の事業拡大に向けて、区との調整や準備を行った。</p> <p>「評価指標」実施件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・日 帰</td> <td>162</td> <td>228</td> <td>223</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>・訪 問</td> <td>127</td> <td>194</td> <td>202</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>・電話相談</td> <td>925</td> <td>367</td> <td>348</td> <td>288</td> </tr> </tbody> </table>		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	・日 帰	162	228	223	107	・訪 問	127	194	202	240	・電話相談	925	367	348	288			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度(2月時点)																																												
・日 帰	325	162	228	223																																												
・訪 問	344	127	194	202																																												
・電話相談	639	925	367	348																																												
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																																												
・日 帰	162	228	223	107																																												
・訪 問	127	194	202	240																																												
・電話相談	925	367	348	288																																												

「東京医療保健大学の研究推進、外部資金獲得及び研究インテグリティを確保する
体制の整備に関する要綱」の制定について

企画部

1. 趣 旨

令和2年に総合研究所を発足し、これまで民間企業から研究費の受け入れ等を積極的に行い、学部横断的な還元に努めてきたところです。

他方、大学全体としては学会発表・論文掲載件数が伸びておらず、科研費等の外部資金の応募・採択件数も多くありません。外部評価委員会においても、研究の推進は教育内容のアップデートを図る意味でも不可欠であり、早急な改善が必要とのご指摘を頂戴しているところです。

そこで外部資金の獲得を促進しつつ、政府の方針に基づき「研究インテグリティ」を確保する体制を整備するため、総合研究所の組織強化及び新たに学長戦略本部に「研究力強化会議」を設置し、学内の体制強化を図ることといたします。

2. 主な事項

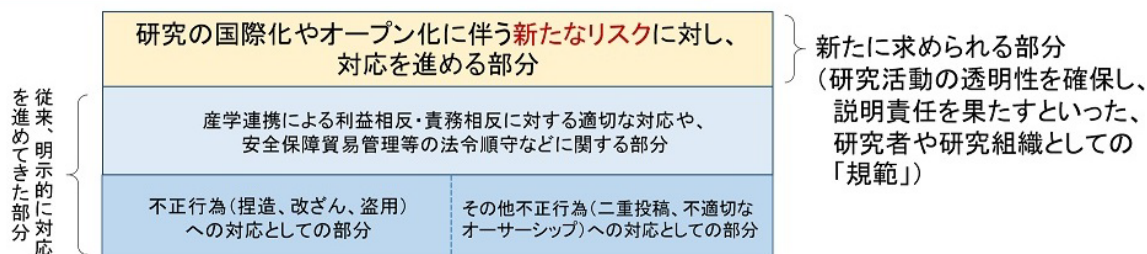
1) 研究推進及び外部資金の獲得について

- 総合研究所の組織強化に資するため、総合研究所に科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律第12条に基づき若手・女性研究者の活躍の場を増やすこととして、「博士号を有する教育職員」を対象としたリーダー級ポストを創設します。
(第2条4項)
- 各学部・学科、研究科等との連携強化のため研究力強化会議を設置します。
(第3条1・2項)
- 他大学の例に倣い、研究推進等の基本方針を策定します。(第3条3項1号)
- 間接経費を伴う外部資金の獲得を積極的に行う方針を明確にします。(第4条1項)

2) 研究インテグリティについて

- 研究インテグリティの確保のうち「新たに求められる部分」の施策について研修等の普及及び調整機能を担うこととします。(第5条5項)

リスク軽減の観点から新たに確保が求められる研究インテグリティ



(文部科学省ホームページ https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/integrity/index.html)

3. 改定日

次年度事業計画策定を早期に行うため、令和6年3月1日に施行することとします。

東京医療保健大学の研究推進、外部資金獲得及び研究インテグリティを確保する
体制の整備に関する要綱

令和6年3月1日
学長決定

(目的)

第1条 この要綱は、全学的な研究推進、外部資金獲得及び研究インテグリティを確保する体制を整備するため、学長戦略本部の常置組織である総合研究所の組織強化及び「研究力強化会議」の設置に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(総合研究所の組織強化)

第2条 東京医療保健大学総合研究所の組織及び運営に関する要綱第3条に定める総合研究所(以下、「研究所という」)の組織を次に改正する。

2. 研究所に所長を置き、学長をもって充てる。
3. 研究所に副所長1名を置き、専任の教授から所長が任免する。
4. 研究所に所長補佐を若干名置き、博士の学位を有する教育職員から所長が任免することができる。ただし、当該任免にあつては、科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律第12条の趣旨を踏まえるものとする。
5. 研究所に、研究課題(以下、プロジェクトという)ごとに研究ユニットを設置することとし、各研究ユニットに研究ユニット長1名を置き、教育職員から所長が任免する。
6. 前項のプロジェクトごとに副ユニット長及び研究員を若干名置くことができる。この副ユニット長及び研究員は、教育職員、事務職員、非常勤講師、共同研究員(東京医療保健大学共同研究取扱規程第5条第1項に基づき理事長が受け入れを決定したものをいう)、本学の関連医療機関の職員の中から、当該プロジェクトのユニット長の推薦にもとづき、所長が任免する。
7. 第5項の研究ユニットの名称は、所長が別に定める。この場合、前2項のユニット長、副ユニット長の呼称は、ユニットの名称に合わせて別に定める。

(研究力強化会議)

第3条 学長戦略本部に、研究力強化会議を置く。

2. 研究力強化会議は、次のものをもって構成する。
 - (1) 学長戦略本部長
 - (2) 研究所副所長及び所長補佐
 - (3) 研究所研究ユニット長
 - (4) IR推進室長及び学修基盤推進室長
 - (5) 事務局長
 - (6) その他学長戦略本部長が必要と認めたもの

3. 研究力強化会議は、全学的な研究の推進、外部資金の獲得及び研究インテグリティの確保に関して、次の事項を審議する。
 - (1) 東京医療保健大学において行う研究の推進、外部資金の獲得及び研究インテグリティの確保に関する基本方針及び実施計画
 - (2) 学部・学科、研究科等(以下、「学部等」という)との連携及び調整に関すること
 - (3) その他全学的な研究の推進、外部資金の獲得及び研究インテグリティの確保に関する重要事項
4. 研究力強化会議は、前項各号の審議を関係する委員会に委嘱し、若しくは意見を聞くことができる。
5. 学長戦略本部長は、学部等に対して、第3項第1項第1号の基本方針又は実施計画を推進する上で必要な助言若しくは指導を行うとともに、研究の過程若しくは成果等について報告を求めることができる。

(研究資金等の獲得)

- 第4条 学部等は、外部による研究資金等(以下、「外部資金」という)の獲得(資金の配分機関によって本学に直接経費及び間接経費の計上が原則認められるものをいう)に努め、当該資金を伴う研究課題等を優先的に取り扱うものとする。
2. 前項による研究資金等の応募において、学長戦略本部長は、推薦状の提供等の便宜を図るものとする。
 3. 学部等は、外部資金を獲得する見込みが乏しい研究若しくは社会活動の案件であっても、地域との連携強化その他の事情により学部等として積極的に取り組みたい研究若しくは社会活動がある場合は、学長戦略本部長に対して、協議を行うものとする。
 4. 学長戦略本部長は、外部資金を獲得する上で必要と認めるときは、理事長の承認を経て、本学と公的機関や民間企業等(以下、企業等という)との包括提携協定、秘密保持契約その他の締約を行うことができる。ただし、学部等に限定された活動について、企業等の一部の部門と締約を結ぼうとする場合は、当該学部等の長があらかじめ学長戦略本部長の同意を得た上で、理事長の承認を得て当該締結を行うものとする。
 5. 本条第1項及び第4項により外部資金の獲得やその前提となる締約等を行うにあつては、その案件を主に担当する教職員は、学長戦略本部長の定めるところにより、研究インテグリティの確保に必要な措置を取るものとする。

附則 この要綱は、令和6年3月1日から施行する。

地方公共団体、企業、関連病院等との連携・協力による地域の課題解決に向けた各種取組状況について(令和5年10月1日現在)

1. 現在実施している地域の課題解決に向けた各種取組状況について

●医療保健学部 看護学科

○担当責任者 学生委員会 (担当者氏名等敬称略。以下同じ)

連携・協力事業名	品川区消防団・品川区消防署との連携
連携等の取組内容	学生に品川区消防団について紹介し、入団希望のある学生の募集を行い、消防団活動を支援している。 消防団協力事業所に登録されている。
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 学生委員会

連携・協力事業名	災害総合訓練への協力
連携等の取組内容	NTT 東日本関東病院が実施する災害総合訓練において、学生有志を募り、模擬患者役を担当している。 学生に参加証を発行している。コロナの影響でここ数年実施していないが、コロナ前は継続的に実施しており、今後も継続される予定。
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 看護学科

連携・協力事業名	ラダーⅢ及びⅣ 研修講師の派遣
連携等の取組内容	NTT 東日本関東病院のラダーⅢ及びⅣの研究に関する研修において講師を派遣している。
報酬、寄附金等の有無	講師謝金を受け取っている。

○担当責任者 学生委員会

連携・協力事業名	品川区立第三日野小学校 小学校教諭のBLS研修会
連携等の取組内容	品川区立第三小学校と連携し、小学生の命を守ることを目的に、全教諭(約30名)の救急救命知識の獲得及び救命技術の取得を目指し、BLS&AEDの技術演習を実施している。
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 小澤知子

連携・協力事業名	品川区立第三日野小学校 5年生防災教育講習会
連携等の取組内容	品川区立第三日野小学校と連携し、小学生の防災への興味関心の動機づけを目的に、小学5年生（106名）を対象に災害時における映像を用いた講義、回復体位とシミュレーターを用いたBLS&AED体験演習を実施している。
報酬、寄附金の有無	なし

○担当責任者 小澤知子

連携・協力事業名	実習指導力育成講習会
連携等の取組内容	看護学科の実習施設の臨床指導者と大学が協働し、実習指導実践力を高め、教育環境の質の向上を目指したプログラム「講義・演習→実習指導実践→演習」を9月から翌年1月にかけて3日間実施している。
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 小澤知子

連携・協力事業名	臨地実習協議会
連携等の取組内容	看護学科の実習施設と大学が協働を目的とし、本学の実習教育への理解を深め、グループワークによる他施設との情報交換、課題抽出等のディスカッションを9月に開催している。抽出された課題については看護学科教授会で報告し、検討を実施している。
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 渡會睦子 担当者 山之井麻衣、柳沢（非常勤・住民とともに活動する保健師の会）

連携・協力事業名	第5回わっと!つながるみんなのみらいファームエイド東五反田
連携等の取組内容	<p>主催：ファーム・エイド東五反田実行委員会 NTT 東日本関東病院/東京医療保健大学医療保健学部/東京医療保健大学地域健康づくり研究・教育センター/(株)くもん出版 日生薬局/みんなの談義しながわ/ (学法)東京マスダ学院/(株)TESS/エーザイ株/(株)セブン&アイ・フードシステムズ(デニーズ) ワークスコープ東京南部事業本部/ (特非)日本ノルディックウォーキング協会/就労支援事業所かしのみ</p> <p>共催：品川区 相生会町会</p> <p>日時：11月5日（日）午前10時30分～午後4時 ※6月から月に1回打ち合わせ会議に参加（計5回）</p> <p>参加学生：看護学科2年生10名、1年生1名、栄養学科1名（学生広報部）計12名</p> <p>実施内容：</p>

	<p>① 認知症シンポジウム 11月4日(土)城南信用金庫本店 大広間にて 町氷敏雄さん 丹野智文さん、品川区の当事者の方、NHK 町永俊雄さん</p> <p>②映画上映会(上大崎在宅介護支援センター主催) 11月4日(土)東京医療保健大学にて 「ぼけますから、よろしくお願ひします」 「医師 中村哲の仕事・働くということ」</p> <p>③マルシェ</p> <p>④体験コーナー 情報学科の写真ゲーム、分包体験(博芳堂薬局)、車いす体験、 エコバッグ作り・バスボム作り、ボール de ウォーク、 栄養相談コーナー、マッサージ体験、実験コーナー、若年性認知症、 ジャムコーナー、夏まつりミニコーナー、抽選会</p>
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 渡會睦子 担当者 山之井麻衣

連携・協力事業名	しながわみんなで想う橙プロジェクト～オレンジフェスタ 2023～(品川区認知症啓蒙活動)
連携等の取組内容	<p>主催：しながわ みんなで想う橙(オレンジ)プロジェクト～オレンジフェスタ 2023～実行委員会</p> <p>後援：品川区(高齢者地域支援課 認知症サポート係)</p> <p>協賛：大成祭典株式会社、区内の寺院、株式会社セブン&アイ・フードシステムズ(デニーズ)</p> <p>日時：9月10日(日)14:00-17:00</p> <p>場所：しながわ中央公園(西品川1-27-14)</p> <p>参加学生：3年生12名、2年生2名1年生5名(計19名)</p> <p>内容：認知症のある方もない方も、大人も子どもも楽しめる認知症普及啓蒙イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オレンジキャンドル作り&キャンドルナイト ・芋煮&ラムネ販売 ・認知症カフェブース ・福祉工場しながわ パン工房しなふくプチレーブによる販売 ・認知症当事者による創作物販売 ・子ども向け認知症クイズ&お菓子配布
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 渡會睦子 担当者 山之井麻衣

連携・協力事業名	あいおい夏祭りへのボランティア参加
連携等の取組内容	<p>主催：あいおい祭り実行委員会</p> <p>日時：8月27日（日）</p> <p>場所：五反田倶楽部横の通路</p> <p>参加学生：3年生8名、2年生4名、1年生3名（計15名）</p> <p>内容：相生会町会、東五反田倶楽部、隣接する薬局・コンビニが合同で開催し、東京医療保健大学の学生もボランティアで参加した。</p> <p>出店：焼きそば、ぐるぐるフランク、鴨つくね、わたあめやポップコーン、かき氷のほか、ヨーヨー釣り等のゲームコーナー、無添加のフルーツジュースやゼリーなどを販売</p> <p>来客者：800名</p>
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 渡會睦子 担当者 柳沢（非常勤・住民とともに活動する保健師の会）

連携・協力事業名	若年性認知症当事者就労支援 ジャムづくり 2023年度
連携等の取組内容	<p>主催：東五反田倶楽部</p> <p>内容：ジャムの試食・今後の連携方法等を話し合い</p> <p>日時：6月20日</p> <p>場所：荏原地域センター調理室</p> <p>内容：若年性認知症当事者の就労支援を目指し、ジャムの製造販売を行うことを目的に東五反田倶楽部でジャム作りを始めている。</p> <p>東京医療保健大学の教員は、研究者として監修・指導・パンフレット作製・研究を行い、業績としていくことを東五反田倶楽部も希望している。</p> <p>看護学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年性認知症の理解を広げるパンフレット等を作成、その他研究 ・学生ボランティア（東五反田倶楽部には、看護学科学生がアルバイトしていることもある） <p>医療栄養学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生管理指導（東五反田倶楽部には、東京医療保健大学出身の栄養士が2名在籍） ・学生ボランティア <p>医療情報学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画からの就労方法に関する分析 ・学生がネット販売の手伝い、ネット通販データの解析 ・パンフレット（芸術志望学生） デザイン評価 ・Webサイト：助成金制度 仕入れ先から作成までの動画作成

報酬、寄附金等の有無	なし
------------	----

○担当責任者 渡會睦子

連携・協力事業名	エイズ予防財団主催 エイズデー渋谷街頭キャンペーン
連携等の取組内容	日時：12月2日（土） 内容：キャンペーン時に街頭でパンフレットなどの配布 参加学生：2年生6名
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 渡會睦子

連携・協力事業名	地域医療機関・医師会からの依頼の性教育推進 品川で性教育を考える会
連携等の取組内容	東京医療保健大学学長より依頼を受け参加している 主メンバー：品川区医師会副会長 三浦医院医院長 品川区長 東京医療保健大学 渡會 むらさき乳腺クリニック五反田 医院長 就労移行支援事業所 ジョブサ品川 内容： 性教育推進グループ 品川で性教育を考える会としての研修会運営 第1回研修会：6月30日（金）19：30～ 品川区医師会館 第2回研修会：7月21日（金）19：30～ むらさき乳腺クリニック五反田 第3回研修会：9月15日（金）19：30～ むらさき乳腺クリニック五反田 第4回研修会：10月4日（水）19：30～ 品川区医師会 第5回研修会：11月17日（金）19：30～むらさき乳腺クリニック五反田 12月に次回以降の検討会開催
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 渡會睦子

連携・協力事業名	地域共生社会を目指す「地域マナー&防災かるた」の作成と活用
連携等の取組内容	品川区地域第一センター 町会自治会連合会事業 講演会 センター担当：渡會 タイトル 「コロナ禍でもできる地域の絆づくり～まちで楽しく過ごすためのマナー・防災かるたづくり」 日時 令和4年9月13日（火）13：30～15：20 講師：渡會睦子（東京医療保健大学）（健康科学博士）

報酬、寄附金等の有無	講演費

○担当責任者 渡會睦子

連携・協力事業名	ヒーリングドールの実習病院への寄付
連携等の取組内容	地域保健活動演習健康づくりの会や看護学概論の演習で交流のある地域住民とともに、自作のヒーリングドールを実習病院に寄付できないか検討している。 (ヒーリングドールは、長期入院中の子どもたちの癒しになったり、医師が病気や手術の説明時に使う。世界的な運動にもなっている。)
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 渡會睦子 担当者 山之井麻衣、佐々木美奈子、崎山（非常勤・住民とともに活動する保健師の会）

連携・協力事業名	八潮地区総合防災訓練 2023 年度
連携等の取組内容	主催：品川区防災協議会八潮地区協議会 品川区防災協議会八潮地区協議会・品川区八潮地域センターとの連携により行った。 日時：10月1日(日) ※別日に事前打ち合わせ・事前下見の会に参加 場所：明晴学園、八潮公園多目的広場、こみゆにていぷらざ八潮 参加学生：看護学科7名 内容：消防や警察・関係機関の話、消火栓放水訓練（まちかど防災訓練車）、応急手当訓練、救護所ではスーパーアンビュランス車の見学 参加者：1,000名
報酬、寄附金等の有無	昼食、交通費

○担当責任者 渡會睦子 担当者 永弘悦子、岩淵

連携・協力事業名	健康大学しながわ（品川区事業） 地域健康づくり活動グループ支援（運営委託）
連携等の取組内容	健康大学しながわ 運営会議・連絡協議会 4回／年

	<p>日時：5月15日、8月21日、11月18日、あと1回予定</p> <p>場所：荏原保健センター</p> <p>参加者：渡會、永弘、岩渕</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動について話し合い。 ・健康大学しながわに属す住民の方が行う健康教育について相談に応じ指導する。
報酬、寄附金等の有無	運営委託金あり

○担当責任者 渡會睦子

連携・協力事業名	健康大学しながわ 地域活動グループ活動 事業評価
連携等の取組内容	<p>「評価指標」健康大学しながわ 評価表の作成 2回/年</p> <p>日時：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月13日 品川区荏原保健センターと「評価指標」健康大学しながわ評価委託と評価内容・年間計画について話し合い ・7月7日、31日 品川区健康推進部長との話し合い ・11月 中間評価について提出
報酬、寄附金等の有無	運営委託金あり

○担当責任者 渡會睦子 担当者 阿部桃子

連携・協力事業名	健康講座「人生100年時代 安心して暮らし続けるためにいま知っておきたいこと」
連携等の取組内容	<p>日時：9月24日(日)</p> <p>場所：荏原文化センター(中延1-9-15)</p> <p>演者：阿部桃子</p> <p>対象者：品川区民、図書館利用者、認知症カフェ利用者</p> <p>内容：東京医療保健大学と荏原図書館の連携事業</p> <p>住み慣れた地域で暮らし続けるための、健康と暮らしについて考えるきっかけとすることが目的の講演会</p> <p>平均寿命と健康寿命の違い、健やかに暮らし続けるために必要なフレイル予防、健康管理、いざという時の備えなど、「病院に行く前にできること」をわかりやすく説明した。</p>
報酬、寄附金等の有無	講演費

○担当責任者 佐々木美奈子 担当者 渡會睦子

連携・協力事業名	品川区役所健康推進部・企業・東京医療保健大学 連携事業 産業保健協議会
----------	-------------------------------------

連携等の取組内容	品川区・企業・東京医療保健大学 産業保健協議会の立ち上げ 7月7日(金)に、品川区健康推進部長・保健調整担当主査・荏原保健センター長、東京医療保健大学佐々木・渡會で話し合いに参加、現在、品川区と共に検討中
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 渡會睦子

連携・協力事業名	品川区の居住外国人に対する区の取り組みと看護実践の共同
連携等の取組内容	日時：9月14日(木)11:00~12:10 場所：品川区総務部総務課平和・国際担当 中村様 木村様 大学：グロープロ 大堀、本谷 センター担当 渡會 内容：挨拶を兼ねて情報交換し、今後、連携していくことができないか検討 (1)本学の紹介(渡會) (2)グロープロの取り組み紹介(大堀) (3)品川区の外国人の状況や居住外国人に対する区の取り組み(中村氏) ①品川区の外国人居住者の状況 ②外国人向けの区の取り組み a 在住外国人の日本語学習または学習支援を行う事業 b 多文化共生意識の醸成および啓発に資する事業 ③外国人への情報伝達手段
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 渡會睦子

連携・協力事業名	東京都特別区における保健師研修
連携等の取組内容	1)特別区東部ブロック(葛飾区、江戸川区、墨田区、江東区)保健師研究会 事業名：特別区東部ブロック 保健師研修会 日時：2023年12月25日(月) 場所：葛飾区小岩 内容：地区診断～個人から集団対策の考え方～ 講師：渡會 2)特別区専門研修 中堅保健師研修会 事業名：令和5年度専門研修 日時：2023年7月10日(月) 場所：特別区職員研修所 内容：地域保健活動における「地域づくり」 講師：渡會

報酬、寄附金等の有無	講演費
------------	-----

○担当責任者 渡會睦子 担当者 柳沢（非常勤・住民とともに活動する保健師の会）

連携・協力事業名	東京都保健医療局からの委託事業
連携等の取組内容	<p>①東京都保健医療局からの外部委員への委託事業に対し、学生がアルバイトとして業務にあっている。</p> <p>センター担当：渡會</p> <p>外部委員：住民とともに活動する保健師の会</p> <p>学生：看護学科・医療栄養学科・医療情報学科の4名が中心となり随時増減</p> <p>1) 青少年施設(中高生放課後施設)に若者を派遣し教育を行う「HIV 啓発拠点 4T」事業 2回/週</p> <p>2) 池袋保健所に開設している「エイズ知ろう館」事業 2回/週</p> <p>3) 若者が集う「AIDS フェスティバル」事業 学生約30名参加予定</p> <p>4) HIV/AIDS・性感染症対策におけるサイト・SNS 運営等の「情報発信」事業 随時</p> <p>②エイズ・ピア・エデュケーター事業</p> <p>1) エイズ・ピア・エデュケーター養成研修 8月養成研修 学生15名参加</p> <p>11月4日 医愛祭にてエイズ・ピア・エデュケーション実施</p> <p>都内中学・高等学校 今後10校実施予定</p>
報酬、寄附金等の有無	<p>① 東京都保健医療局からの委託事業費 12,000,000円</p> <p>② 東京都保健医療局からの委託事業費 1,100,000円</p>

○担当責任者 渡會睦子 担当者 柳沢（非常勤・住民とともに活動する保健師の会）

連携・協力事業名	医療保健学部 部活動 青少年の性と健康を考え活動する会(2SK会) 医愛祭
連携等の取組内容	<p>日時：11月4日(土)、5日(日)</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都感染症課・世田谷区健所・品川区保健所・目黒区保健所、エイズ予防財団とのエイズ・性感染症予防啓発の合同展示 (寄付金：991円) ・エイズ・性感染症の説明 アウェアネスリボンの作成と展示 <p>ブース来場者数：約300名</p>
報酬、寄附金等の有無	なし。運搬費等は部費にて支払い

○担当責任者 渡會睦子 担当 佐々木、渡辺、山之井、柳沢（非常勤・住民とともに活動する保健師の会）

連携・協力事業名	看護学科2年生自主組織 すまいるおとどけ隊
----------	-----------------------

連携等の取組内容	<p>日時：毎週2回実施</p> <p>場所：千代田区の高齢者施設</p> <p>参加学生：看護学科2年生43名（自主組織）</p> <p>内容：地域保健活動演習（2年生地域看護学領域）で住民を対象に行った健康づくりの会のレクリエーションのような内容を実施</p> <p>今後は品川区の施設での活動も希望しているため紹介を予定</p> <p>また、幹部の負担が軽くなるよう補助していく予定</p>
報酬、寄附金等の有無	なし。交通費等自己負担

●医療保健学部 医療栄養学科

○担当責任者 梶忍

連携・協力事業名	世田谷区きたざわまつり（2023年10月22日）
連携等の取組内容	きたざわまつりの健康づくり課ブースにおいて住民の栄養相談を実施した（20名）。地域栄養学実習の学生も見学した。
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 梶忍

連携・協力事業名	世田谷区きたざわ健康まねきの会
連携等の取組内容	きたざわ健康まねきの会のメンバーとして、北沢地域の健康増進事業計画作成への参画。
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 梶忍

連携・協力事業名	フリー栄養士会ぱせり
連携等の取組内容	フリー栄養士会パセリと一緒に地域の栄養改善事業研究を実施。
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 梶忍

連携・協力事業名	世田谷区男の料理教室の支援
連携等の取組内容	男の料理教室の協力支援を実施している。
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 金田一秀

連携・協力事業名	<p>世田谷区立三宿小学校</p> <p>世田谷区教育総合センター</p>
連携等の取組内容	テーマ：手の消毒効果をしらべよう

	実施日：令和5年2月13日・18日 内容：目に見えない微生物が自分の手にどのくらい付いているのか、また手を消毒することでどのくらい微生物が減るのかを体験した。
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 金田一秀

連携・協力事業名	世田谷区立三宿小学校 世田谷区教育総合センター
連携等の取組内容	テーマ：食品中の色をとりだして調べよう！ 実施日：令和5年6月10日 内容：食品から合成着色料を取り出し、どの種類が含まれているのかを調べ、実際の食品表示ラベル（着色料）との比較を行った。
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 金田一秀

連携・協力事業名	世田谷区教育総合センター 世田谷保健所生活保健課
連携等の取組内容	教育総合センターメッセへのイベント参加 実施日：令和5年12月16日 内容：食材から色素の抽出、手洗いカードゲームの実施。
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 今泉一哉、瀬戸僚馬、齋藤さな恵

連携・協力事業名	京急サービス株式会社
連携等の取組内容	地域連携協定に伴い、京急サービス株式会社が指定管理者であるスポーツコミュニティよこすかでの健康増進イベント（GW及びスポーツの日）に医療栄養・医療情報学科にて企画出展している。医療栄養は食育および健康レシピ・試食提供を実施している。
報酬、寄附金等の有無	イベント時の雑費のみ

○担当責任者 齋藤さな恵

連携・協力事業名	株式会社ケアコム
連携等の取組内容	ケアコム群馬工場にて開催の地域住民向け「農園祭」に年2回参加し、子供向け食育及び地域住民との収穫体験、収穫野菜を使った料理の試食提供を実施している。（担当責任者：齋藤さな恵）
報酬、寄附金等の有無	イベント時の雑費のみ

○担当責任者 細田明美

連携・協力事業名	NPO 法人 キープ・ママ・スマイリング
連携等の取組内容	国立成育医療研究センター内にあるドナルド・マクドナルド・ハウスせたがやに滞在し、子どもの入院に付き添いされているご家族へミールプログラムを年に数回実施している。毎回、医療栄養学科の学生が数名参加し、弁当やおやつの調理提供を行っている。
報酬、寄附金等の有無	なし

●医療保健学部 医療情報学科

○担当責任者 今泉一哉

連携・協力事業名	プロスポーツチームと大学との協働による教育・研究・地域貢献活動の実施
連携等の取組内容	女子プロバスケットボール・東京羽田ヴィッキーズと連携して新学科におけるスポーツテクノロジー教育・研究・社会貢献を協働して実施する。具体的には、地域住民向けのスポーツ教室の開催、科学的サポート、共同によるスポーツ科学研究の実施、産業と連携した新規事業開発、学生によるインターンシップ参加などを想定している。本年度中の締結を目指して、担当者・代表者との話し合いを進めている。
報酬、寄附金等の有無	報酬、寄附金等の受け取りは想定していない

●東が丘看護学部

○担当責任者 東が丘看護学部

連携・協力事業名	東京医療保健大学と目黒区との連携・協力に関する基本協定
連携等の取組内容	区教育委員会との連携による ・連携（公開）講座の実施 ・区後援イベントの実施 ・イベントへのボランティア参加 区主催会議体（教育委サブ委員会、自殺対策推進会議）へのメンバー参加
報酬、寄附金等の有無	講座講師等への謝礼程度

○担当責任者

連携・協力事業名	目黒消防団
連携等の取組内容	学生消防団員としての活動（訓練参加、年始式、消防団点検等イベント参加）
報酬、寄附金等の有無	なし

●立川看護学部

○担当責任者；：学生委員会

連携・協力事業名	立川市消防団
連携等の取組内容	学生消防団員としての活動（訓練参加、年始式、消防団点検等イベント参加）
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者；：小児看護学領域

連携・協力事業名	立川市健康推進課 アロマでせっけんづくり
連携等の取組内容	小学生と保護者を対象に夏休みイベントとして、「アロマでせっけんづくり」講習を実施した。 せっけんづくりを通して、手洗いの大切さを学んでいく。
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者；：看護基盤学領域

連携・協力事業名	災害医療センター 災害訓練への協力
連携等の取組内容	災害医療センターが実施する災害訓練において、本学学生（4年生全員）が災害看護学の実習の一環として参加した。模擬患者役だけでなく、医療者役をまかされることもあり、直接、医師、看護師の先生方からの指導を受けた。トリアージも実施され、かなり、実践に近い形での実習となった。
報酬、寄附金等の有無	なし

●千葉看護学部

○担当責任者 千葉看護学部

連携・協力事業名	千葉看護学部地域交流イベント
連携等の取組内容	船橋中央病院と合同での地域住民向け健康チェック・保健指導の実施
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 阿部恭子

連携・協力事業名	新卒看護職員研修（JCHO 船橋中央病院）
連携等の取組内容	看護技術に関する新卒看護職員研修（4月から5月、6日間程度。新人看護職員数は40名前後）
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 阿部恭子

連携・協力事業名	ラダーレベルⅢ看護研究（JCHO 船橋中央病院）
連携等の取組内容	研究計画書作成指導および計画書発表会用資料作成指導（4回/年、5～8部署/年）

報酬、寄附金等の有無	あり
------------	----

○担当責任者 阿部恭子、渡邊章子

連携・協力事業名	看護研究支援 (JCHO 船橋中央病院)
連携等の取組内容	看護研究指導 (1回/月、3~6部署/回)
報酬、寄附金等の有無	あり

○担当責任者 菊池有紀

連携・協力事業名	海神 (都疎浜) 地区在住高齢者の健康指標測定支援
連携等の取組内容	実習施設である海神在宅介護支援センターからの協力要請に基づき、都疎浜自治会、海神地区社会福祉協議会との協働により、自治会館で行われる「生き生きくらぶ」において、年2回ほど健康指標の測定の支援を行い、その結果を住民にフィードバックすることで地域貢献を目的としている。
報酬、寄附金等の有無	なし

●和歌山看護学部

○担当責任者 野手千津子 根田珠美

連携・協力事業名	和歌山県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター (青少年赤十字)
連携等の取組内容	東京医療保健大学和歌山看護学部学生赤十字奉仕団が和歌山県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター スタッフとして参加。対象：小学生、高校生 日時：2022年11月13日 10:00~16:00 参加学生：3名
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 野手千津子 根田珠美

連携・協力事業名	NHK 海外たすけあい救援金 街頭募金
連携等の取組内容	東京医療保健大学和歌山看護学部学生赤十字奉仕団がNHK 海外たすけあい救援金街頭募金活動に参加。 日時：2022年12月1日 参加学生：2名
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 野手千津子 根田珠美

連携・協力事業名	ほんまち子ども食堂での遊び企画 いっしょに折り紙をつくろう (チーム メイクスポット)
----------	---

連携等の取組内容	東京医療保健大学和歌山看護学部学生赤十字奉仕団が子ども食堂に来られた親子に対し、折り紙、手遊び、読み聞かせの遊びを企画し支援を行った。 日時：2023年3月11日 土曜日 12時～15時 参加学生 7名
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 和歌山事務部

連携・協力事業名	社協まつり（ 社会福祉法人和歌山市社会福祉協議会 ）
連携等の取組内容	地域住民向けイベントに高齢者疑似体験コーナーの運営ボランティアとして参加。 日時：2023年3月12日（日） 10:00-15:00 参加：教職員3名、学生7名
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 和歌山事務部

連携・協力事業名	第5回 POWER of わかやま（ 一般社団法人和歌山青年会議所 ）
連携等の取組内容	地域活性化イベントにて、ダンス部、軽音同好会が地域住民向けにステージ披露 日時：2023年9月10日（日） 11:00～16:00 参加：ダンス部20名、軽音同好会13名
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 和歌山事務部

連携・協力事業名	多数傷病者訓練（ 和歌山市中消防署 ）
連携等の取組内容	本学部雄湊キャンパスにて大規模地震が発生した想定で訓練を実施し本学部生は傷病者役、医療従事者として参加。 日時：2023年9月14日（木）10:00-12:00 参加：本学部生46名
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 野手千津子 根田珠美

連携・協力事業名	親子で学ぶ救急～もしもの時に備えて心肺蘇生の方法を学ぼう～ （ 和歌山市民図書館 ）
連携等の取組内容	和歌山市民図書館にて東京医療保健大学和歌山看護学部学生赤十字奉仕団が企画を考え運営。 参加親子に心臓マッサージとAEDの説明を行ったのち、心臓マッサージ、AEDの

	<p>取り扱い体験、説明した内容についてのクイズを作成し、子どもたちが楽しくポイントを学べるよう行った。</p> <p>日時： 2023年10月14日土曜日 13:00~14:00</p> <p>参加学生 6名</p>
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 和歌山事務部

連携・協力事業名	令和5年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練
連携等の取組内容	<p>和歌山県で大規模地震が発生した想定で実施される訓練に本学部生は傷病者役として参加。</p> <p>日時：2023年11月3日（金祝） 12:00-18:00</p> <p>参加：本学部生31名、近畿府県（和歌山県、福井県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、徳島県、関西広域連合）、約60機関、参加人数約1,200名、車両約200台、航空機10機、船舶10隻</p>
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 野手千津子 根田珠美

連携・協力事業名	奉仕団 災害時の豆知識 in 医愛祭
連携等の取組内容	<p>東京医療保健大学和歌山看護学部学生赤十字奉仕団が学生や地域の人々に災害時に避難所で活用できる豆知識を知ってもらうため、医愛祭にて以下を企画運営。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「避難場所で使える便利グッズを作ってみよう！」 ・新聞紙でスリッパ、ごみ箱を一緒に作る ・毛布でガウンを作る体験会 ・防災〇×クイズ ・防災グッズ展示 ・防災グッズの一覧表の紙を作成し、ブースに置き自由にとれるようにする <p>日時；11月4日、5日 10:00~16:00</p> <p>参加学生：13名</p>
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 和歌山看護実践研究センター

連携・協力事業名	和歌山看護実践研究センター学習会2023（日本赤十字社和歌山医療センター）
連携等の取組内容	<p>日本赤十字社和歌山医療センターと連携して行う事業として地域の看護職を対象に学習会を開催（昨年度に引き2回目）</p> <p>「臨床実践を科学的に意味づける」－文献検索の意義と方法を知ろう－</p> <p>講師：准教授 吉村公一 他</p>

	参加対象者：地域の臨床経験4年以上の看護師対象 参加者：9名 開催日程：7/15、8/25、9/16、10/21の全4回
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 和歌山看護実践研究センター

連携・協力事業名	新任看護師技術研修会（日本赤十字社和歌山医療センター）
連携等の取組内容	日本赤十字社和歌山医療センターと連携して日赤入職前の卒業生に対して就職前技術研修を行った。 日 時：令和5年3月22日、23日 実施場所：日本赤十字社和歌山医療センター南館12階スキルラボ室 参加者：本学卒業生54名（日赤就職予定者）
報酬、寄附金等の有無	なし

○担当責任者 和歌山看護学部

連携・協力事業名	和歌山県看護協会
連携等の取組内容	和歌山県の看護職養成のため本学部から看護師職能委員、教育委員会委員、実習指導者講習会講師などを派遣している。
報酬、寄附金等の有無	有（協会規定による）

○担当責任者 学生生活委員会

連携・協力事業名	和歌山市・ぶんだら節
連携等の取組内容	和歌山市が地域振興・活性化のために主催している夏の地域最大イベントである「ぶんだら節」に連として参加 日 時：令和5年8月5日 参加人数：教職員総勢46名
報酬、寄附金等の有無	無

○担当責任者 広報委員会

連携・協力事業名	和歌山市（和歌山城ホール）・第2回 学生支援プロジェクト
連携等の取組内容	和歌山市が和歌山城ホールを中核として、生徒や学生の交流や活発な活動を応援し、また、地域の活性維持を支える人材の確保を図るため、中・高生の市内進学・就職や学生時代の経験創出を支援することを目的とするもの。 日 時：令和6年2月29日 場 所：和歌山城ホール 参加者：地元中学生・高校生

	※地域の教育機関がワークショップ（授業演習等）、進学・就職ガイダンスを実施
報酬、寄附金等の有無	無

2. 今後予定されている地域の課題解決に向けた各種取組状況について

●医療保健学部 看護学科

○担当責任者 学生委員会

連携・協力事業名	一般社団法人ヤングケアラー協会との連携
連携等の取組内容	学生に協会および相談窓口を紹介。また教員にも協会および協会が行っている活動例を紹介し、連携希望の教員がいた際には事務部に連絡するようにしている。
報酬、寄附金等の有無	なし

●医療保健学部 医療栄養学科 対応なし

●医療保健学部 医療情報学科

○担当責任者 今泉一哉

連携・協力事業名	世田谷健康体操連盟との連携によるインターンシップ等の連携
連携等の取組内容	世田谷区健康体操連盟は、区内全域でトリム体操教室を運営している統括組織であり、会員数 2016 名、世田谷区スポーツ振興財団の賛助会員である。これまで、今泉教授が同連盟の顧問として、体操の科学的サポートや研究協力を行ってきた。においてスポーツテクノロジーに関する教育・研究を展開するために、同連盟と大学の間で組織的な体制を整えるために、本年度を目処に連携に関する検討を開始している状況である。
報酬、寄附金等の有無	報酬、寄付金等の受け取りは想定していない

●東が丘看護学部

○担当責任者 東が丘看護学部

連携・協力事業名	目黒区公民連携プラットフォーム
連携等の取組内容	未定
報酬、寄附金等の有無	未定

●立川看護学部 対応なし

●千葉看護学部 対応なし

●和歌山看護学部

○担当責任者 和歌山看護学部

連携・協力事業名	高等教育共創コンソーシアム和歌山
連携等の取組内容	和歌山県「地域連携プラットフォーム」の設置

	<p>(以下参照)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>和歌山「地域連携プラットフォーム」の設</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>わかやまの学生×地域 万博プロジェクト.f</p> </div> </div>
報酬、寄附金等の有無	なし